

嘉麻市教育委員会

点検・評価報告書

(令和6年度事業分)

令和7年9月

## 目 次

1. 教育委員会点検・評価の概要について	1
(1) はじめに	1
(2) 点検・評価の導入の目的	1
(3) 点検・評価の対象事業	1
(4) 点検・評価の方法	2
(5) 結果の取扱い	2
(6) 嘉麻市教育行政の基本理念	2
(7) 嘉麻市教育振興基本計画	3
「第6次嘉麻市教育アクションプラン（令和6年度～令和8年度）」	
2. 嘉麻市教育委員会について	4
(1) 教育委員会の活動	4
(2) 教育委員会の会議開催状況	4
(3) 教育委員会の学校訪問実施状況	7
3. 全体評価結果	7
4. 事業別評価結果	8
■主要施策1 少人数指導等による学力向上	11
■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実	14
■主要施策3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進	30
■主要施策4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進	44
■主要施策5 体力及び運動能力向上の推進	53
■主要施策6 人権尊重精神を育成する教育の推進	57
■主要施策7 市民文化の創造	61
5. 点検・評価委員の意見	68
《資料》	
・嘉麻市教育委員会点検評価実施要綱	80

## 1. 教育委員会点検・評価の概要について

### (1) はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条及び嘉麻市教育基本条例第7条の規定に基づき、平成20年4月から、嘉麻市教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しています。

この報告書は、令和6年度の嘉麻市教育委員会に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、点検評価委員の意見を付して、報告するものです。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）  
（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

### (2) 点検・評価の導入の目的

教育委員会制度は、首長から独立した合議制の教育委員会が決定する教育行政に関する基本的方針のもと、教育長及び事務局が広範かつ専門的な具体の教育行政事務を執行するものです。

このため、事前に教育委員会が立てた基本方針にそって、具体的な教育行政が執行されているかどうかについて、教育委員会自らが事後にチェックする必要があり、教育委員会が地域住民に対する説明責任を果たし、その活動を充実させることが目的です。

### (3) 点検・評価の対象事業

第6次嘉麻市教育アクションプラン（令和6年度～令和8年度嘉麻市教育振興基本計画）の事業を対象とします。

#### (4) 点検・評価の方法

事業ごとに目標達成度の観点から、それぞれの所管課が自己評価を行い、点検・評価の客観性を確保するために第三者評価を行いました。

第三者評価については、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るため、有識者2名に委嘱し、全57事業から抽出された21事業について、各所管課との間でヒアリングを実施し、各事業の達成度、成果及び効果等について、専門的な知見に基づく意見及び助言等をいただきました。

#### 《点検評価委員名簿》

	選出区分	氏名	役職等
1	学識経験を有する者	原田 直樹	福岡県立大学看護学部准教授
2	学識経験を有する者	八田 信人	福岡県立大学人間社会学部特任教授

#### (5) 結果の取扱い

この点検・評価においては、事業ごとに3段階【A：期待以上（高い）、B：概ね期待どおり（基準）、C：課題あり（低い）】で評価し、評価の高い事業については引き続き実施し、評価の低い事業については課題や問題の解決を行うと同時に、事業の見直しについて検討していく予定です。

#### (6) 嘉麻市教育行政の基本理念

嘉麻市教育委員会では、嘉麻市教育基本条例第2条の基本理念に基づき、本市の教育行政を実施していきます。

##### 嘉麻市教育基本条例（抜粋） （基本理念）

第2条 教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び地域社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な市民の育成を期して行われなければならない。

2 市民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。

3 家庭、地域住民及び市は、前2項に定める基本理念の実現に努めるものとする。

## (7) 嘉麻市教育振興基本計画

「第6次嘉麻市教育アクションプラン（令和6年度～令和8年度）」

嘉麻市教育委員会では、教育行政の基本理念に基づき、本市における教育振興のための施策に関し基本的な事項を定めた「第6次嘉麻市教育アクションプラン」を策定し、学校教育、社会教育、文化・芸術の各分野における7つの教育施策を柱として、その実現に向けた施策を推進しました。

### 主要施策

1. 少人数指導（1学級を30人以下の児童又は生徒で編成する等の指導形態をいう。）等による学力向上
2. 個性又は能力を育成する学校教育の充実
3. 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進
4. 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進
5. 体力及び運動能力向上の推進
6. 人権尊重精神を育成する教育の推進
7. 市民文化の創造

この7つの施策に基づく事業を対象に、点検・評価を実施しました。

### \* 第6次嘉麻市教育アクションプラン

（令和6年度～令和8年度 嘉麻市教育振興基本計画）

上記の基本計画は「嘉麻市ホームページ」<http://www.city.kama.lg.jp>でご覧いただけます。

検索方法：情報を探す➡キーワードでさがす

キーワード「教育アクションプラン」と入力してください。

## 2. 嘉麻市教育委員会について

### (1) 教育委員会の活動

教育委員会は教育長を含む5名の委員で構成され、会議の実施については、原則、定例会が毎月1回、臨時会は必要に応じて開催し、教育行政に関する重要事項等を適時適切に慎重に審議しています。

また、嘉麻市教育委員会定例学校訪問実施要項に基づき、定例学校訪問を実施しています。小中学校及び義務教育学校を訪問し、学校教育現場の状況を確認するとともに、教育委員の立場からの要望等の意見を聴いています

《嘉麻市教育委員会委員名簿》

令和7年9月現在

職名	氏名	任期
教育長	伊東新治	令和7年4月1日～令和9年11月8日
教育長 職務代理者	佐竹正利	令和7年7月4日～令和11年7月3日
委員	辻田喜美	令和6年8月29日～令和10年8月28日
委員	犬丸隆行	令和5年7月4日～令和9年7月3日
委員	松岡瞳子	令和4年7月4日～令和8年7月3日

### (2) 教育委員会の会議開催状況

#### ◆令和6年度教育委員会開催実績

- ・定例会 12回
- ・臨時会 3回 計 15回

#### ◆令和6年度教育委員会の会議における議案

番号	議案	開催日
1	嘉麻市立学校施設の開放に関する条例施行規則の一部を改正する規則について	4/2
2	令和7年度使用中学校用教科書の採択について	8/19
3	嘉麻市奨学資金条例施行規則の一部を改正する規則について	10/1
4	嘉麻市立小学校、中学校及び義務教育学校の教育制度の充実に関する規則の一部を改正する規則について	12/6
5	嘉麻市立小学校、中学校及び義務教育学校の教育制度の充実に関する規則第2条ただし書きに定める教育委員会の承認事項について	3/3
6	嘉麻市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則について	3/31

7	嘉麻市立小学校、中学校及び義務教育学校施設の開放に関する条例施行規則の一部を改正する規則について	3/31
8	嘉麻市立学校施設開放運営協議会規則の一部を改正する規則について	3/31
9	嘉麻市山田生涯学習館条例施行規則の一部を改正する規則について	3/31
10	嘉麻市教育委員会障害者活躍推進計画（案）について	3/31

◆令和6年度教育委員会の会議における協議

番号	協議	開催日
1	嘉麻市教育委員会点検・評価（令和5年度事業分）（案）について	7/2

◆令和6年度教育委員会の会議における報告

番号	報告	開催日
1	嘉麻市立学校開放施設使用料の減免に関する規程の一部を改正する告示について	4/2
2	嘉麻市立義務教育学校開校記念事業補助金交付規程の制定について	4/2
3	嘉麻市教育委員会研究指定校委嘱及び補助金交付要綱の一部を改正する要綱について	4/2
4	嘉麻市文化財保護事業補助金交付規程の一部を改正する告示について	4/2
5	嘉麻市スポーツ推進委員の委嘱について	4/2
6	令和5年度標準学力調査（東京書籍）結果について	4/2
7	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	4/2
8	嘉麻市情報教育推進協議会設置要綱の一部を改正する要綱について	5/7
9	嘉麻市立中学校及び義務教育学校の部活動の在り方検討委員会設置要綱について（再報告）	5/7
10	嘉麻市立小・中学校運営協議会委員の委嘱・任命について	5/7
11	嘉麻市立中・義務教育学校 学校評議員の委嘱について	5/7
12	嘉麻市立中・義務教育学校 学校関係者評価委員の委嘱について	5/7
13	嘉麻市文化財保護審議会委員の委嘱・任命について	5/7
14	嘉麻市立織田廣喜美術館運営協議会委員の委嘱について	5/7
15	嘉麻市立図書館協議会委員の委嘱・任命について	5/7
16	嘉麻市奨学資金貸付審議会委員の委嘱・任命について	5/7
17	令和6年度嘉麻市奨学資金貸付審議会の諮問及び答申について	5/7
18	令和5年度嘉麻市立中・義務教育（後期）学校卒業生の進路報告について	5/7
19	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	5/7
20	嘉麻市就学援助費交付認定規程の一部を改正する告示について	6/4
21	令和6年6月嘉麻市議会定例会上程議案等について	6/4

22	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	6/4
23	嘉麻市特別支援教育就学奨励費交付認定規程の一部を改正する告示について	7/2
24	嘉麻市立小学校・中学校及び義務教育学校夏季休業中の学校閉庁日の指定について	7/2
25	嘉麻市社会教育委員の委嘱・任命について	7/2
26	嘉麻市公民館運営審議会委員の委嘱・任命について	7/2
27	嘉麻市稲築地区公民館等施設整備について（進捗報告）	7/2
28	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	7/2
29	歳入の指定納付受託に関する告示について	8/6
30	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	8/6
31	嘉麻市教育委員会点検・評価（令和5年度事業分）について	9/3
32	嘉麻市奨学資金貸付審議会の諮問及び答申について	9/3
33	令和6年9月嘉麻市議会上程議案等について	9/3
34	令和6年度全国学力・学習状況調査等について	9/3
35	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	9/3
36	嘉麻市地域学校協働本部設置要綱の制定について	10/1
37	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	10/1
38	嘉麻市公の施設指定管理者審査委員会の諮問に関する臨時代理について	11/12
39	嘉麻市公の施設指定管理者候補者の選定について（嘉麻市サルビアパーク）	11/12
40	嘉麻市公の施設指定管理者候補者の選定について（嘉麻市温水プールスイミングプラザなつき）	11/12
41	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	11/12
42	嘉麻市スポーツ推進審議会委員の委嘱について	12/6
43	嘉麻市社会体育施設条例の一部改正に伴うパブリックコメントの実施について	12/6
44	令和7年「嘉麻市二十歳のつどい」の概要について	12/6
45	令和6年12月嘉麻市議会上程議案等について	12/6
46	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	12/6
47	嘉麻市スポーツ推進委員の委嘱について	1/7
48	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	1/7
49	嘉麻市立嘉穂中学校学校関係者評価委員の委嘱について	2/4
50	嘉麻市立嘉穂中学校学校評議員の委嘱について	2/4
51	嘉麻市上山田住民ホール条例廃止に係るパブリックコメントについて	2/4
52	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	2/4
53	令和7年3月嘉麻市議会定例会上程議案等について	3/3
54	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	3/3
55	令和7年度教職員の人事（内示）について	3/6

56	嘉麻市立小学校、中学校及び義務教育学校開放施設使用料の減免に関する規程の一部を改正する告示について	3/31
57	嘉麻市立嘉穂小学校及び嘉穂中学校通学対策費補助金交付規程及び嘉麻市立稲築西義務教育学校（前期過程）通学対策費補助金交付規程の一部を改正する告示について	3/31
58	嘉麻市文化活動及びスポーツ大会全国大会等出場補助金交付規程の一部を改正する告示について	3/31
59	嘉麻市教育振興基本計画調整会議設置要綱の一部を改正する要綱について	3/31
60	嘉麻市教育委員会新型インフルエンザ対策本部設置要綱の一部を改正する要綱について	3/31
61	嘉麻市情報教育推進協議会設置要綱の一部を改正する要綱について	3/31

### (3) 教育委員会の学校訪問実施状況

定例学校訪問未実施（令和6年度は新任校長がなかったため）

## 3. 全体評価結果

評価の方法は、目標達成度及び取組における成果や効果から、総合的に評価を行いました。また、令和6年度に実施した全57事業から抽出された21事業について、評価委員によるヒアリングを行い、専門的な知見に基づく意見及び助言等をいただき、今後の方向性及び令和6年度の課題につきましても、あわせて検討しました。事務局の自己評価と評価委員の意見を踏まえた教育委員会としての評価結果は、期待以上（高い）のA評価が15事業（26.3%）、概ね期待どおり（基準）のB評価が42事業（73.7%）、課題あり（低い）のC評価が0事業（0%）となりました。

令和6年度は、第6次嘉麻市教育アクションプランの初年度となりますが、嘉麻市の基本方針や基本計画に沿った教育行政が推進されるよう、時代に合った教育ニーズや地域の実情に応じた取組を進めるとともに、事務事業の更なる効率化及び工夫改善を図る必要があると考えます。

《評価結果》

	教育委員会評価 全57事業
A：期待以上（高い）	15事業（26.3%）
B：概ね期待どおり（基準）	42事業（73.7%）
C：課題あり（低い）	0事業（0%）

## 4. 事業別評価結果

### ■主要施策1 少人数指導等による学力向上

施策の内容	番号	事業名	教育委員会評価			外部評価事業	記載ページ
			A	B	C		
(1) 確かな学力向上のための取組の推進	1	少人数指導推進事業		○		◎	11
	2	学力検証事業		○		◎	12
	3	嘉麻市学力向上サポート事業		○		◎	13

### ■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

施策の内容	番号	事業名	教育委員会評価			外部評価事業	記載ページ
			A	B	C		
(1) 子どものニーズに応じる教育の充実	4	特別支援教育推進事業	○			◎	14
(2) 社会の変化に対応する教育の充実	5	英語コミュニケーション能力育成事業		○			15
	6	情報教育推進事業	○				16
	7	小・中・義務教育学校情報教育施設整備事業		○		◎	17
	8	教育モデル推進事業		○			18
(3) 信頼される教員の確保と研修の充実	9	嘉麻市教育研究所研修推進事業	○				19
(4) 安心して学べる学校づくりの推進	10	学校防犯体制整備事業	○				20
	11	通学対策事業		○			21
(5) 学校施設整備の推進	12	小・中・義務教育学校施設維持管理事業	○				22
	13	大隈城山校維持管理事業		○			23
(6) 地域に開かれた学校づくりの推進	14	コミュニティ・スクール推進事業		○			24
	15	地域学校協働活動推進事業		○			25
	16	学校開放事務事業		○			26
(7) 小中一貫教育への取組	17	小中一貫教育推進事業	○				27
(8) 教育の機会均等の促進	18	就学援助事業		○			28
	19	奨学金事業		○		◎	29

### ■主要施策3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

施策の内容	番号	事業名	教育委員会評価			外部評価事業	記載ページ
			A	B	C		
(1) 道徳性と自立心を養う心の教育の充実	20	道徳教育推進事業		○			30
	21	キャリア教育推進事業		○			31
(2) 健やかな心身をはぐくむ健康教育の充実	22	学校保健事業		○		◎	32
	23	学校給食運営事業		○			33
	24	学校給食費算定及び収納事業		○			34
(3) 家庭・地域・学校における読書活動推進	25	読書活動推進事業		○			35
(4) いじめ・不登校問題等の解決に向けた体制の充実	26	適応指導教室（れすとびあ）推進事業	○			◎	36
	27	不登校対策支援事業		○		◎	37
	28	いじめ問題対策推進事業		○		◎	38
(5) 家庭・地域の教育力を高める支援体制の充実	29	郷土を愛する子どもの育成事業	○				39
	30	家庭教育支援事業		○		◎	40
	31	青少年健全育成事業		○		◎	41
(6) 男女共同参画教育の推進	32	学校における男女共同参画推進事業		○			42
	33	地域社会における男女共同参画推進事業		○			43

#### ■主要施策 4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

施策の内容	番号	事業名	教育委員会評価			外部評価事業	記載ページ
			A	B	C		
(1) 学習機会の提供及び学習成果の活用促進	34	生涯学習推進事業		○			44
	35	社会教育施設整備事業		○			45
	36	公民館事業	○				46
	37	分館・自治公民館活動支援事業		○			47
	38	公民館施設等維持管理事業		○			48
	39	稲築地区公民館施設等整備事業		○			49
(2) 図書館の利用促進	40	図書館施設管理運営事業		○		◎	50
	41	読書活動推進事業	○			◎	51
	42	図書ボランティア養成及び活動支援事業	○				52

#### ■主要施策 5 体力及び運動能力向上の推進

施策の内容	番号	事業名	教育委員会評価			外部評価事業	記載ページ
			A	B	C		
(1) 生涯スポーツ支援	43	プロジェクトK推進事業	○			◎	53
	44	地域コミュニティ活性化事業	○				54
	45	学校教育における体力向上推進事業		○		◎	55
(2) スポーツ環境の整備	46	スポーツ施設の整備・維持管理事業		○			56

#### ■主要施策 6 人権尊重精神を育成する教育の推進

施策の内容	番号	事業名	教育委員会評価			外部評価事業	記載ページ
			A	B	C		
(1) 学校教育における人権・同和教育の推進及び支援	47	人権・同和教育推進事業		○		◎	57
(2) 社会教育における人権・同和教育の推進及び支援	48	人権・同和教育推進事業		○		◎	58
	49	人権・同和教育推進少年団体育成事業		○			59
	50	人権・同和教育推進団体育成事業		○			60

#### ■主要施策 7 市民文化の創造

施策の内容	番号	事業名	教育委員会評価			外部評価事業	記載ページ
			A	B	C		
(1) 美術に関する創造的活動の推進	51	文化芸術活動推進事業		○		◎	61
	52	美術館運営管理事業		○		◎	62
	53	企画展事業		○			63
	54	美術教育普及事業	○				64
(2) 文化財の保護・継承・活用	55	郷土の歴史文化を守る事業		○			65
	56	郷土の歴史文化を伝える事業	○			◎	66
	57	郷土の歴史文化拠点施設活用事業		○			67

点検評価表の見方

主要施策					
施策の内容					
<b>事業名</b> (予算/決算)		【事業番号】 事業名 (担当課:担当係) (予算: 千円 / 決算: 千円)			
事業の概要	事業の目的	※アクションプラン策定時における事業実施の目的			
	事業の内容	※目的を達成するための事業内容			
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	※アクションプランにおける令和6年度目標値			
	実績値 (目標値との比較)	※令和6年度の目標値に対する実績値			
	重点課題	※令和6年度の課題			
	課題への取組と成果	※重点課題への対応を含め、 令和6年度に取組んだ事業内容とその成果及び効果			
次年度重点課題		※次年度に重点的に取り組む課題			
令和6年度 自己評価	<b>【評価の指標】</b>		<b>A</b>	<b>B</b>	<b>C</b>
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)				
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)				
	評価の根拠	※取組の総合的な成果や効果、及び成果として見えにくい部分を補足するなどし、教育委員会評価に繋がった評価根拠			
<b>教育委員会評価</b>		今回	(前回)	—	

※評価の指標 A:期待以上(高い) B:概ね期待どおり(基準) C:課題あり(低い)

主要施策	1	少人数指導等による学力の向上			
施策の内容	1	確かな学力向上のための取組の推進			
<b>事業名</b> (予算/決算)	[1] 少人数指導推進事業 (学校教育課: 教務係) (予算: 105,017千円 / 決算101,926千円)				
事業の概要	事業の目的	小・中・義務教育学校全学年において、1学級を30人以下の少人数指導を実施し、児童生徒の状況を把握しながら、より個に応じた指導を行うことによって、生徒指導の充実、学力を向上させるよう努めます。			
	事業の内容	基準にもとづく少人数指導特別教員を配置し、小・中・義務教育学校の少人数指導を推進しています。			
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	基準にもとづく職員の配置…小・義務教育学校 (前期) 10名 中・義務教育学校 (後期) 5名			
	実績値 (目標値との比較)	基準にもとづく職員の配置…小・義務教育学校 (前期) 10名 中・義務教育学校 (後期) 5名			
	重点課題	基準にもとづく職員の100%配置			
	課題への取組と成果	教員不足が全国的にも大きな課題となっている状況の中で、積極的に退職教員に依頼をかけたたり、任期付講師として採用したりするなどして、少人数指導を行うために教員確保に取り組みました。 その結果、令和6年度の全国学力学習状況調査の小・義務教育学校 (前期) の算数において標準化得点で99 (R5より+1) と全国平均にあと一歩というところまで迫ることができました。			
次年度重点課題	基準にもとづく職員の100%配置と効果的な弾力的活用				
令和6年度 自己評価	<b>【評価の指標】</b>		<b>A</b>	<b>B</b>	<b>C</b>
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)			○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)			○	
	評価の根拠	全国的に教員不足が常態化している中で、小学校で10名、中学校で5名配置することができました。その結果、少人数指導を全小・中学校で実施できました。 全国学力・学習状況調査では、嘉麻市全体として、嘉麻市の目標値である標準化得点100 (全国平均) に達していませんが、小学校算数において標準化得点99 (令和5年度より+1) と、全国平均に迫る結果を出すことができました。【小学校算数】98→99			
<b>教育委員会評価</b>		<b>今回</b>	<b>B</b>	<b>(前回)</b>	<b>(B)</b>

※評価の指標 A: 期待以上 (高い) B: 概ね期待どおり (基準) C: 課題あり (低い)

主要施策	1	少人数指導等による学力向上		
施策の内容	1	確かな学力向上のための取組の推進		
<b>事業名</b> (予算/決算)	<b>[2] 学力検証事業 (学校教育課：教務係)</b> (予算：7,035千円 / 決算：6,029千円)			
事業の概要	事業の目的	児童生徒の実態や学力を把握・分析し、課題を明らかにして学校内の組織的な取組の改善を図り、自ら学び考えるなどの確かな学力を育む教育を推進します。		
	事業の内容	各種学力検査を実施し、早期に学力向上策の評価・改善を行い、授業改善等を促進します。		
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	標準学力調査 小・義務教育学校 (前期)：49.5ポイント 標準学力分析検査 中・義務教育学校 (後期)：46.8ポイント		
	実績値 (目標値との比較)	標準学力調査 小・義務教育学校 (前期)：49.8ポイント (+1.5ポイント) 標準学力分析検査 中・義務教育学校 (後期)：45.8ポイント (±0ポイント)		
	重点課題	学力低位層(CD層)に対する個に応じた学習指導及び学習支援の充実。		
	課題への取組と成果	小・義務教育学校 (前期) では、標準学力調査を1年間の学力向上を検証する成果指標として位置付け、単元ごとに行う市販テストをもとに短いスパンで学力向上策の評価・改善を実施しました。中・義務教育学校 (後期) では、フクトの標準学力分析検査や課題テスト等により、年間3回以上の学力向上策の評価・改善を実施しました。 その結果、小・義務教育学校 (前期) では、標準学力調査の結果を昨年度と比較した場合、全体で1.5ポイント上昇しました。 また、全ての学校で習熟度別授業を実施し、学習状況に応じた支援を行うことができました。特に学力CD層の子を把握し、その克服に向けてきめ細かな支援を行うことができました。		
次年度重点課題	短期スパンでの見取りによる授業改善等の促進			
令和6年度 自己評価	<b>【評価の指標】</b>	<b>A</b>	<b>B</b>	<b>C</b>
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○	
評価の根拠	小・中・義務教育学校の学力検査では、小学校においては目標値を達成させることができました。(48.5→49.8) 特に算数においては、50.5ポイントと、標準学力調査への実施移行後、初めて全国平均を超えることができました。 しかし、中・義務教育学校 (後期) は、標準学力分析検査の結果を昨年度と比較した場合、昨年度と変わらず、目標値までまだ課題があります。			
<b>教育委員会評価</b>		<b>今回</b>	<b>B</b>	(前回) (B)

※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)

主要施策	1	少人数指導等による学力向上		
施策の内容	1	確かな学力向上のための取組の推進		
<b>事業名</b> (予算/決算)	[3] 嘉麻市学力向上サポート事業 (学校教育課：教務係) (予算：32,218千円 / 決算：24,379千円)			
事業の概要	事業の目的	地域人材や学生ボランティアを活用して、教育課程外の学力向上事業を実施することにより、児童生徒の基礎的な学力の定着を図ります。		
	事業の内容	家庭学習の習慣化を目指し、嘉麻市土曜未来塾を実施します。		
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	土日の家庭学習時間ゼロの児童生徒全国平均 (R6) 以下		
	実績値 (目標値との比較)	土日の家庭学習時間ゼロの児童生徒全国平均以下 (R6 全国学調 小学校15.1%、中学校6.6%) を達成した学校 10校中3校		
	重点課題	嘉麻市土曜未来塾の参加率の向上 (参加率20%以上)		
	課題への取組と成果	目標達成に向けて、学校で土曜未来塾参加について全体的な呼びかけ及び個別の呼びかけを行ったり、生活支援課と連携を図ってケースワーカー等から家庭へのチラシの配布や参加に向けた声掛けも行ってもらったりするなど、土曜未来塾への参加者増に取り組みましたが、今年度は昨年度より13名減の182名の児童生徒の参加に留まりました。(参加率12.4%) 今後、教員に対し主要施策の目標値や土曜未来塾の趣旨の周知を図ることで積極的な声掛けを促したりする等、土曜未来塾のPR活動に力を入れることで、より多くの児童生徒の参加者数増に取り組んでいきます。		
次年度重点課題	土日の家庭学習時間ゼロの児童生徒 (R7.4) 全国平均以下			
令和6年度 自己評価	<b>【評価の指標】</b>	<b>A</b>	<b>B</b>	<b>C</b>
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○	
評価の根拠	<p>全体の参加者について、昨年度より13名の減少でした。これは、欠席が多い生徒について続けるのか退塾するのか確認していった結果、減少したという経緯があったためです。(最大200名を超える参加者)</p> <p>今後、多くの児童生徒が参加できるように、主要施策の目標値や土曜未来塾の趣旨の周知を図るとともに、土曜未来塾への参加の呼びかけについてさらに工夫改善を図ります。</p>			
<b>教育委員会評価</b>		<b>今回</b>	<b>B</b>	(前回) (B)

※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（基準） C：課題あり（低い）

主要施策	2	個性又は能力を育成する学校教育の充実			
施策の内容	1	子どものニーズに応じる教育の充実			
<b>事業名</b> (予算/決算)		<b>[4] 特別支援教育推進事業 (学校教育課：教務係)</b> (予算：110,298千円 / 決算：101,606千円)			
事業の概要	事業の目的	保育所(園)・幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校及び特別支援学校における特別支援教育の推進及び充実のため一人ひとりのニーズに応じた教育条件の整備を図ります。			
	事業の内容	特別支援教育補助教員等を配置し、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行います。			
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	特別支援教育補助教員等の配置：基準に基づく配置数			
	実績値 (目標値との比較)	特別支援教育補助教員等の配置：基準に基づく配置数			
	重点課題	特別な支援を必要とする児童生徒は年々増加傾向にあり、その児童生徒に対応する教職員及び補助教員等も増加の一途をたどっています。そのため、一貫した継続的な指導・支援を充実する必要があります。			
	課題への取組と成果	特別支援教育補助教員9名、特別支援教育支援員33名を配置し、配慮を必要とする児童生徒一人ひとりのニーズに応じた特別支援教育を行いました。			
次年度重点課題		特別な支援を必要とする児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な指導や必要な支援を行うため児童生徒の実情に応じた補助教員等の人的配置が必要です。そのための財源確保が厳しい状況にありますが、一貫した継続的な指導・支援を充実する必要があります。			
令和6年度 自己評価	<b>【評価の指標】</b>		<b>A</b>	<b>B</b>	<b>C</b>
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)			○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○		
	評価の根拠	特別支援教育補助教員等を基準に基づき配置したことで、配慮を必要とする児童生徒の一人ひとりのニーズに応じた特別支援教育を実施することができました。本事業は、本市の教育課題解決のための重要な役割を担っており、今後も継続して事業を展開する必要があると考えます。			
<b>教育委員会評価</b>		<b>今回</b>	<b>A</b>	<b>(前回)</b>	<b>(A)</b>

※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（基準） C：課題あり（低い）

主要施策	2	個性又は能力を育成する学校教育の充実
施策の内容	2	社会の変化に対応する教育の充実
<b>事業名</b> (予算/決算)	<b>[5] 英語コミュニケーション能力育成事業</b> <b>(学校教育課：教務係)</b> (予算：16,614千円 / 決算：15,513千円)	
事業の概要	事業の目的	英語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、英語によるコミュニケーション能力を高め、国際感覚を身につけさせます。
	事業の内容	外国語指導助手(ALT)を学校に配置およびオンライン英会話を推進します。また、児童生徒アンケートを実施します。

令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	外国語指導助手(ALT)配置：配置 オンライン英会話等の実施：実施 児童生徒アンケート実施：実施
	実績値 (目標値との比較)	外国語指導助手(ALT)配置：小・義務教育学校前期課程8校 配置 オンライン英会話実施 (中・義務教育学校後期課程)：1・2(7・8)年生 5回、 3(9)年生 4回 放課後英語塾授業の実施 (中・義務教育学校後期課程)：通常授業13回 夏期講座 5回 児童生徒アンケート実施：実施
	重点課題	オンライン英会話及び外国語指導助手(ALT)の事業の効果検証を行い、学力向上の推進を図ります。
	課題への取組と成果	中学校及び義務教育学校後期課程を対象にオンライン英会話(マンツーマンレッスン)を1・2(7・8)年生5回、3(9)年生4回を実施しました。中学校及び義務教育学校後期課程の実施回数については、期末試験、高校受験等の行事等を考慮し、委託業者と協議のうえ実施回数を決定しました。また、中学校及び義務教育学校後期課程の希望者を対象に課外活動として、放課後英語塾授業を行い、2コース 48名の参加がありました。児童生徒アンケートについては、小・義務教育学校前期課程3～6年生、中・義務教育学校後期課程1・2(7・8)生を対象に実施しました。
次年度重点課題	放課後英語塾授業及び外国語指導助手(ALT)の事業の効果検証を行い、学力向上の推進を図ります。	

令和6年度 自己評価	<b>【評価の指標】</b>	<b>A</b>	<b>B</b>	<b>C</b>
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○	
	評価の根拠	小学校及び義務教育学校(前期課程)8校にALT1名配置し、外国語教育の充実を図りました。 オンライン英会話においても中学校及び義務教育学校後期課程を対象に実施し、また新規で課外活動の放課後英語塾授業を実施しました。放課後英語塾授業の周知方法として、市のホームページに掲載すると共に学校にてお知らせを配布し、学校からすぐメールを配信しお知らせしました。		
<b>教育委員会評価</b>		<b>今回</b>	<b>B</b>	(前回) (B)

※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)

主要施策	2	個性又は能力を育成する学校教育の充実		
施策の内容	2	社会の変化に対応する教育の充実		
<b>事業名</b> (予算/決算)	<b>[6] 情報教育推進事業 (学校教育課：教務係)</b> (予算：43,303千円 / 決算：43,292千円)			
事業の概要	事業の目的	各学校における情報教育の推進を図り、教師のICT活用指導力の向上と授業等における児童生徒1人1台学習端末の活用を図ります。		
	事業の内容	情報教育支援員による学校支援(児童生徒の発達段階に応じた情報活用能力の育成、情報モラル教育の実施、教職員研修の実施等)を行います。また、嘉麻市情報教育推進協議会による各学校情報教育担当者の情報交換と情報教育推進に関する研修を実施します。		
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	嘉麻市情報教育推進協議会の開催：年3回 情報教育支援員による学校支援：10校 1人1台端末(通称：カスタ)の管理：実施		
	実績値 (目標値との比較)	嘉麻市情報教育推進協議会の開催：年3回 情報教育支援員による学校支援：10校 1人1台端末(通称：カスタ)の管理：実施		
	重点課題	情報教育支援員による学校支援を継続的に行い、嘉麻市1人1台学習用端末(カスタ)を用いた教職員のICT活用指導力の充実に努めるとともに、各学校のホームページの更新の進捗に応じた支援を行います。 嘉麻市1人1台学習用端末(カスタ)の持ち帰りの活用を推進します。		
	課題への取組と成果	1人1台端末(カスタ)の活用を市内全学校において、充実を図るよう情報教育支援員配置やカスタサポートセンター設置により支援を行い、授業での活用に係る校内研修会においては、各学校におけるニーズ(電子黒板、電子教科書等)に応じた研修形式を実施し、授業でのカスタ活用の充実を図りました。また、各学校のホームページ編集のためのソフトウェアを全校統一したものを導入し、更新の進捗に応じた支援を行いました。さらに、情報教育推進室では、カスタの端末管理、ユーザー管理、持ち帰り学習用充電器及びモバイルバッテリー管理を実施し、学校や家庭でのICT活用の推進を図りました。		
	次年度重点課題	嘉麻市1人1台学習用端末(カスタ)の端末更新が実施されるため、学校の授業に支障が無いように支援を継続的に行います。 また、校務支援システムが導入されたため、安定的な運用のための支援を継続的に行います。		
令和6年度 自己評価	<b>【評価の指標】</b>	<b>A</b>	<b>B</b>	<b>C</b>
	実績値評価(当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)	○		
	課題への取組と成果(当該年度の取組における成果・効果)	○		
	評価の根拠	目標達成にかかる各指標を全て目標値以上に達成しています。また、校内研修支援や学校支援、嘉麻市情報教育推進協議会の開催等により、教師のICT活用指導力の向上及び授業等における児童生徒1人1台学習用端末(カスタ)の運用及び活用が充実してきました。		
<b>教育委員会評価</b>		<b>今回</b>	<b>A</b>	(前回) (A)

※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)

主要施策	2	個性又は能力を育成する学校教育の充実			
施策の内容	2	社会の変化に対応する教育の充実			
事業名 (予算/決算)	<b>[7] 小・中・義務教育学校情報教育施設整備事業</b> <b>(教育総務課：管理係)</b> (予算：45,059千円 / 決算：44,942千円)				
事業の概要	事業の目的	多様な子どもたちが誰一人取り残されることのない、子どもたち一人ひとりにとって最適な教育ICT環境の実現を図ります。			
	事業の内容	①高速情報通信ネットワーク環境の運用保守 ②情報機器の運用保守 ③ICT環境の最適化に向けた改善検討			
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	校務用PC等のリプレース：－ パソコン教室情報機器のリプレース：－ ICT環境の最適化に向けた改善検討：実施			
	実績値 (目標値との比較)	校務用PC等のリプレース：－ パソコン教室情報機器のリプレース：－ ICT環境の最適化に向けた改善検討：実施			
	重点課題	引き続き、小学校においても通信環境改善を図るため、プロバイダの変更を行います。また、令和7年度に校務用PCのリプレースを迎えるため、令和7年度予算計上に向けて、検討・準備が必要です。			
	課題への取組と成果	小学校4校について、プロバイダの変更を行い、通信環境の改善を図りました。 また、令和7年度の校務用PCリプレースに向けて、機器の構成等を検討し予算計上を行いました。			
次年度重点課題	円滑に校務用PCのリプレースを実施するため、作業工程等、学校間との十分な調整が必要です。				
令和6年度 自己評価	<b>【評価の指標】</b>		<b>A</b>	<b>B</b>	<b>C</b>
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)			○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)			○	
	評価の根拠	令和6年度事業については、おおむね予定通りに実施できました。			
<b>教育委員会評価</b>		<b>今回</b>	<b>B</b>	<b>(前回)</b>	<b>(B)</b>

※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（基準） C：課題あり（低い）

主要施策	2	個性又は能力を育成する学校教育の充実			
施策の内容	2	社会の変化に対応する教育の充実			
<b>事業名</b> (予算/決算)	<b>[8] 教育モデル推進事業 (学校教育課：教務係)</b> (予算：100千円 / 決算：100千円)				
事業の概要	事業の目的	学校の教育課題に応じた校内研究主題を設定し、具体的な授業場面や教育活動を通して、児童生徒の「確かな学力」「たくましく生きる力」を育むとともに、嘉麻市としての教育課題をどのようにチーム学校として解決を図ってきたかという教育モデルを発表することを目指します。			
	事業の内容	学校の教育課題解決に向けた校内研修の支援や発表会当日、教育モデルとしての価値づけを行い、学校教育の充実を図ります。			
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	教育モデルとしての研究発表内容の明確化 (稲築東義務教育学校) 学校評価 (学校運営)：3. 2以上 (4段階評価)			
	実績値 (目標値との比較)	教育モデルとしての研究発表内容の明確化 (稲築東義務教育学校) 学校評価 (学校運営)：3. 5 (4段階評価)			
	重点課題	令和6年度及び令和7年度に研究委嘱をしている嘉麻市立稲築東義務教育学校の研究内容について指導・助言を行います。			
	課題への取組と成果	令和6年度及び令和7年度に委嘱している嘉麻市立稲築東義務教育学校の研究内容について、研究推進委員会や校内研修に参加し、学校の教育課題の整理や教育のモデルとしての方向性について指導助言を行いました。その結果、義務教育学校としての学校づくりと授業づくりに焦点化し、研究を推進することができつつあります。			
次年度重点課題	令和7年度研究発表校の稲築東義務教育学校については、特に授業づくりにおいて、1年生から9年生まで一貫して取組む活動を創造させていきます。 令和8年度研究発表校の稲築西義務教育学校については、研究推進委員会や校内研修を通して、学校の教育課題の整理や教育のモデルとしての方向性について指導・助言を行います。				
令和6年度 自己評価	<b>【評価の指標】</b>		<b>A</b>	<b>B</b>	<b>C</b>
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)			○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)			○	
	評価の根拠	目標達成に係る指標は達成しています(令和6年度学校評価報告書による)。今後も引き続き、教育モデルとなるよう、義務教育学校としての学校づくり及び小中一貫教育としての授業づくりについて、指導・助言が必要になります。			
<b>教育委員会評価</b>		<b>今回</b>	<b>B</b>	<b>(前回)</b>	<b>(一)</b>

※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)

主要施策	2	個性又は能力を育成する学校教育の推進		
施策の内容	3	信頼される教員の確保と研修の充実		
<b>事業名</b> (予算/決算)	<b>[9] 嘉麻市教育研究所研修推進事業 (学校教育課：教務係)</b> (予算：3,059千円 / 決算：2,821千円)			
事業の概要	事業の目的	嘉麻市教育研究所を中心に、市の課題に応じた教職員及び教育研究団体等の教育研究を奨励するとともに、若年層の指導技術向上、教職員の資質向上に努めます。		
	事業の内容	教職員研修、講師等対象研修、専門研修の実施、校内研修等における指導助言を行います。また、教職員の資質向上を目的とした教育論文の応募を奨励します。		
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	校内研修等訪問回数 (全10校)：50回 特別支援学級訪問：全学級		
	実績値 (目標値との比較)	校内研修等訪問回数 (全10校)：114回 特別支援学級訪問：年間2回訪問 (のべ80学級)		
	重点課題	各学校からの校内研修講師依頼等の要請に応えながら、授業実践の充実に努めます。		
	課題への取組と成果	各学校のニーズに応じた校内研修等における指導助言を行い、授業改善の推進及び研修意欲の向上を図ることができました。 また、特別支援教育を担う教師の専門性の向上と特別支援学級等の適切な運用を目指して、指導・支援を行うことができた。		
次年度重点課題	訪問回数の目標値を達成するだけでなく、指導対象者が、次への意欲を持つことができるような指導助言を行います。			
令和6年度 自己評価	<b>【評価の指標】</b>	<b>A</b>	<b>B</b>	<b>C</b>
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)	○		
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)	○		
評価の根拠	<p>当初計画した研究所主催の研修事業については、目的に応じた研修内容の充実を図ることができました。受講者の満足度も高い研修内容を実施することができました。</p> <p>校内研修、特別支援教育における指導主事派遣回数については、計画以上の実績を残すことができました。各学校のニーズを十分把握したうえで、指導・支援を行いましたので、各学校の満足度も高かったです。</p>			
<b>教育委員会評価</b>		<b>今回</b>	<b>A</b>	(前回) (B)

※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（基準） C：課題あり（低い）

主要施策	2	個性又は能力を育成する学校教育の充実			
施策の内容	4	安心して学べる学校づくりの推進			
<b>事業名</b> (予算/決算)	[10] 学校防犯体制整備事業 (学校教育課：教務係) (予算：8,886千円 / 決算：7,493千円)				
事業の概要	事業の目的	児童生徒の安全管理のため、学校安全に関する取組の充実を図ります。			
	事業の内容	学校支援専門員(警察OB)を配置し、警察等関係機関と連携して生徒指導上の支援を行います。地域学校安全推進員による学校内外の定期的な巡回や見守り、安全マップの作成、防犯メールの配信により、学校の安全体制の整備充実を図ります。			
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	学校支援専門員の配置 : 配置 地域学校安全推進員の配置 : 配置			
	実績値 (目標値との比較)	学校支援専門員の配置 : 配置 地域学校安全推進員の配置 : 配置			
	重点課題	各学校の基本的な安全対策について、きめ細かな指導助言を徹底し、組織的な危機管理意識の醸成に努めます。			
	課題への取組と成果	学校支援専門員が、中学校・義務教育学校後期5校全ての生徒指導委員会に参加するなどして、学校と連携しながら防犯体制等について指導助言を行いました。さらに、各学校からの要請に基づき、生徒指導事案の迅速な対応にも努めてきました。 また、地域学校安全推進員が地域ボランティアと連携しながら通学路での交通安全指導を行ったことにより、学校安全に関する取組の充実を図ることができました。			
次年度重点課題	積極的に学校訪問を行い、各学校との連携を密にし、学校側の要望に応じた実効ある支援を行います。				
令和6年度 自己評価	<b>【評価の指標】</b>		<b>A</b>	<b>B</b>	<b>C</b>
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○		
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○		
	評価の根拠	<p>学校の求めに応じて、学校支援専門員が適切な助言を行ったことで、生徒指導上の諸問題について迅速に対応することができました。学校からの支援依頼がとて多く、学校支援専門員への信頼度は高いです。</p> <p>また、交通安全教室、不審者対応防犯教室への参加、中学校・義務教育学校後期の生徒指導委員会への参加等を通して、学校との連携を深めることができました。さらに、地域学校安全推進員の配置により、児童生徒の登下校時における見守り活動が行われ、学校安全対策の整備が進んでいます。</p> <p>不審者事案については、迅速に学校支援専門員が対応し、警察と連携して巡回等を行い、児童生徒の安全確保に努めてきました。</p>			
<b>教育委員会評価</b>		<b>今回</b>	<b>A</b>	<b>(前回)</b>	<b>(A)</b>

※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（基準） C：課題あり（低い）

主要施策	2	個性又は能力を育成する学校教育の充実		
施策の内容	4	安心して学べる学校づくりの推進		
<b>事業名</b> (予算/決算)	<b>[11] 通学対策事業 (学校教育課: 教務係)</b> (予算: 50,061千円 / 決算: 46,754千円)			
事業の概要	事業の目的	遠距離通学の負担を軽減します。また、通学路の安全確保に関する取組を推進します。		
	事業の内容	遠距離通学することになった児童生徒の通学の負担を軽減します。また、通学路の安全を確保するため、嘉麻市通学路安全推進協議会を開催し、定期的(年3回)に市内小学校において、合同点検を実施します。		
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	対象児童生徒への対応: 実施 嘉麻市通学路安全推進会議: 年3回開催 通学路合同点検: 実施		
	実績値 (目標値との比較)	対象児童生徒への対応: 実施 嘉麻市通学路安全推進会議: 年3回開催 通学路合同点検: 実施		
	重点課題	通学路の安全確保に関する取組を推進します。また、嘉麻市通学路安全推進会議を開催し、情報の共有を図り、対策を講じるとともに、中学生の通学路においても、対策を行っていきます。		
	課題への取組と成果	稲築西義務教育学校に通学する児童のうち、遠距離通学している児童のバス定期券の購入費用の補助を100%実施することができました。また、嘉穂小学校及び嘉穂中学校でスクールバスを運行し、遠距離通学となる児童生徒の送迎を行いました。 通学路の安全確保の取組として嘉麻市通学路安全推進協議会のメンバーで合同点検を実施しました。また、会議を年3回実施し、対策箇所の優先順位を設定し、対策を行いました。		
次年度重点課題	通学路の安全確保に関する取組を推進します。また、情報の共有を図り、早急な対策を講じるため、嘉麻市通学路安全推進会議の開催及び合同点検時期を早めて実施するとともに、中学生の通学路においても、対策を行っていきます。			
令和6年度 自己評価	<b>【評価の指標】</b>	<b>A</b>	<b>B</b>	<b>C</b>
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○	
評価の根拠	目標値をすべての項目で達成することができました。 嘉麻市通学路安全推進会議について、危険箇所の対策をスピード感もって行うため、令和5年度では目標値を年2回開催としていたところ、実績では年3回開催し目標値を上回る成果となっておりますが、令和6年度も引き続き通学路安全推進会議を年3回(7月、10月、3月)開催し、8月に合同点検(20箇所)を実施しています。 危険箇所について、警察や道路管理者と対策を協議し、対策を講じました。			
<b>教育委員会評価</b>	<b>今回</b>	<b>B</b>	(前回)	(A)

※評価の指標 A: 期待以上(高い) B: 概ね期待どおり(基準) C: 課題あり(低い)

主要施策	2	個性又は能力を育成する学校教育の充実			
施策の内容	5	学校施設整備の推進			
<b>事業名</b> (予算/決算)	<b>[12] 小・中・義務教育学校施設維持管理事業</b> <b>(教育総務課：管理係)</b> (現年予算：133,914千円 / 決算：112,899千円)				
事業の概要	事業の目的	すべての児童生徒が安心して学習に取り組めるよう校舎等の維持管理を行い、快適な教育環境の整備を図ります。			
	事業の内容	①校舎の大規模改造工事 ②屋内外運動場の大規模改造工事 ③学校施設の修繕及び維持管理			
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	校舎の大規模改造工事：－ 屋内外運動場の大規模改造工事：－ 施設修繕及び維持管理：実施			
	実績値 (目標値との比較)	施設修繕及び維持管理：必要に応じて実施			
	重点課題	引き続き、大規模改修が必要な施設の改修時期等について検討する必要があります。			
	課題への取組と成果	嘉穂中学校グラウンドの排水対策を目的とした大規模改修工事の実施設計を行いました。			
	次年度重点課題	円滑に事業を実施するため、学校間との調整及び工程管理が重要となってきます。			
令和6年度 自己評価	<b>【評価の指標】</b>		<b>A</b>	<b>B</b>	<b>C</b>
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○		
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)			○	
	評価の根拠	令和6年度事業については、おおむね予定通りに実施できました。 また、当初予定の工事に加えて、義務教育学校整備に係る別途発注工事を行い、おおむね年度内に完了することができました。			
<b>教育委員会評価</b>		<b>今回</b>	<b>A</b>	(前回)	(A)

※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（基準） C：課題あり（低い）

主要施策	2	個性又は能力を育成する学校教育の充実		
施策の内容	5	学校施設整備の推進		
<b>事業名</b> (予算/決算)	<b>[13] 大隈城山校維持管理事業 (教育総務課：管理係)</b> (予算：33,760千円 / 決算：29,790千円)			
事業の概要	事業の目的	すべての生徒が安心して学習に取り組めるよう校舎等の管理を行い、快適な教育環境の整備を図ります。		
	事業の内容	①校舎の大規模改造工事 ②施設の修繕及び維持管理 ③ICT環境の維持管理		
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	校舎の大規模改造工事：－ 施設の修繕及び維持管理：実施 ICT環境の維持管理：実施		
	実績値 (目標値との比較)	施設の修繕及び維持管理：必要に応じて実施 ICT環境の維持管理：必要に応じて実施		
	重点課題	施設が老朽化しているため、改修に向けた検討が必要です。		
	課題への取組と成果	施設の長寿命化を図るため、外壁等の大規模改修工事に係る実施設計を行いました。 また、令和7年度の校務用PCリプレースとPC教室リプレースに向けて、機器の構成等を検討し予算計上を行いました。		
	次年度重点課題	大規模改修工事における授業への影響を最小限に抑えるため、学校間との調整及び工程管理が重要となってきます。		
令和6年度 自己評価	<b>【評価の指標】</b>	<b>A</b>	<b>B</b>	<b>C</b>
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○	
	評価の根拠	令和6年度事業については、おおむね予定通りに実施できました。		
<b>教育委員会評価</b>		<b>今回</b>	<b>B</b>	(前回) (B)

※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（基準） C：課題あり（低い）

主要施策	2	個性又は能力を育成する学校教育の充実			
施策の内容	6	地域に開かれた学校づくりの推進			
<b>事業名</b> (予算/決算)		<b>[14] コミュニティ・スクール推進事業 (学校教育課：教務係)</b> (予算：428千円 / 決算：175千円)			
事業の概要	事業の目的	保護者や地域住民等が一定の権限と責任を持って学校運営に参加することで、育てたい児童生徒像、目指すべき教育のビジョンを共有し、目標の実現に向けて協働する仕組みをつくります。			
	事業の内容	全校実施に向けて、段階的に実施校を増やし、各学校の準備や運営に対しての支援を行います。			
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	学校運営協議会：実施及び準備			
	実績値 (目標値との比較)	学校運営協議会：実施 (上山田小学校・山田中学校・牛隈小学校) 準備 (嘉穂中学校・碓井義務教育学校)			
	重点課題	コミュニティ・スクール実施校である下山田小学校、熊ヶ畑小学校・嘉穂小学校をモデルとして、令和6年度は、上山田小学校・山田中学校・牛隈小学校で本格実施、嘉穂中学校、碓井義務教育学校は次年度本格実施に向けた準備を進めます。			
	課題への取組と成果	令和6年度は、学校運営協議会の準備が整った上山田小学校・山田中学校・牛隈小学校においてコミュニティ・スクールが本格始動しました。また、嘉穂中学校、碓井義務教育学校において準備を進めてきました。 コミュニティ・スクール実施及び準備の支援として、学校運営協議会の運営や諸活動の情報提供を行いました。このことにより、当該校の教職員や地域の関係者のコミュニティ・スクールに関する理解が深まり、地域との協働が進んできました。			
	次年度重点課題	令和7年度は、嘉穂中学校・碓井義務教育学校の本格実施と稲築西義務教育学校、稲築東義務教育学校の準備を進めます。			
令和6年度 自己評価	<b>【評価の指標】</b>		<b>A</b>	<b>B</b>	<b>C</b>
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)			○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)			○	
	評価の根拠	各学校の運営協議会の年間計画の通り、学校と地域が協働して取組を進めていくことができています。その結果、令和5年度比較して令和6年度の学校評価における「地域との連携」の項目で評価指数の向上がみられます。 熊ヶ畑小(4.0→4.0) 上山田小(2.7→3.0)、下山田小(3.3→3.5) 嘉穂小(2.8→2.7) 牛隈小(3.5→3.5) 山田中(3.3→3.6) また、これらの学校の取組は、市内校長研修会や教頭協議会等でも情報交換がなされ、事業の推進が図られています。			
<b>教育委員会評価</b>		<b>今回</b>	<b>B</b>	<b>(前回)</b>	<b>(B)</b>

※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（基準） C：課題あり（低い）

主要施策	2	個性又は能力を育成する学校教育の充実			
施策の内容	6	地域に開かれた学校づくりの推進			
<b>事業名</b> (予算/決算)	<b>[15] 地域学校協働活動推進事業 (生涯学習課：社会教育係)</b> (予算：－ 千円 / 決算：－ 千円)				
事業の概要	事業の目的	学校と地域とで学校教育目標や子どもの姿、地域課題等を共有し、課題解決のための実働ができる体制づくりを構築し、学校と地域学校協働本部が一体的推進を図ることで、地域人材の協力による学校支援活動や放課後等における学習支援・体験活動の充実、安全・安心な放課後の居場所づくりを推進します。			
	事業の内容	①地域学校協働本部設置要綱の制定 ②地域学校協働本部の設置			
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	地域学校協働本部設置に向けた説明、調査、準備等 ・地域学校協働本部設置要綱の制定 ・地域学校協働本部の設置 〈本部設置数〉 稲築地区1 碓井地区1 嘉穂地区1 山田地区1			
	実績値 (目標値との比較)	地域学校協働本部設置要綱を制定し、令和6年10月1日に施行 地域学校協働本部の設置について、住民説明を行い各地区に本部を設置			
	重点課題	学校と地域学校協働本部が一体的推進を図ることで、地域人材の協力による学校支援活動や放課後等における学習支援・体験活動の充実、安全・安心な放課後の居場所づくりを推進します。			
	課題への取組と成果	地区ごとに地域学校協働本部の形を考え、既存団体の活動も尊重しながら行っていくことを説明しております。 引き続き地域学校協働本部が地域、学校、行政一体となって推進するものであり、既存団体の活動を尊重するものであることを今後も説明していく必要があると考えます。			
	次年度重点課題	既存団体の活動を尊重しつつ、更なる事業推進のため、本部会議の中で地域学校行動本部の意義を説明し、本部会議事業を増やしていく必要があります。			
令和6年度 自己評価	<b>【評価の指標】</b>	<b>A</b>	<b>B</b>	<b>C</b>	
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○		
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○		
	評価の根拠	具体的な成果としては、4地区に本部会議を設置するという目標を達成しており、概ね期待通りの評価としております。 課題への取組についても、事前に想定していた地区ごとの課題などがあり、進捗状況も異なることから概ね期待通りの結果として受け止めております。			
<b>教育委員会評価</b>		<b>今回</b>	<b>B</b>	(前回)	(－)

※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（基準） C：課題あり（低い）

主要施策	2	個性又は能力を育成する学校教育の充実		
施策の内容	6	地域に開かれた学校づくりの推進		
<b>事業名</b> (予算/決算)	<b>[16] 学校開放事務事業 (教育総務課：管理係)</b> (予算： — 千円 / 決算： — 千円)			
事業の概要	事業の目的	生涯学習社会における文化、スポーツ等の地域活動の場として、学校施設を開放することにより、地域住民の生涯学習の推進を図ります。		
	事業の内容	①利用団体間の年間スケジュール調整及び管理 ②利用施設の年間スケジュール調整及び管理		
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	利用団体間の年間スケジュール調整及び管理：実施 利用施設の年間スケジュール調整及び管理：実施		
	実績値 (目標値との比較)	利用団体間の年間スケジュール調整及び管理：実施 利用施設の年間スケジュール調整及び管理：実施		
	重点課題	碓井義務教育学校メインアリーナ及び稲築西義務教育学校サブアリーナについては、次年度中途での供用開始となるため、施設開放にあたっては利用団体との事前調整が必要です。		
	課題への取組と成果	碓井義務教育学校メインアリーナ及び稲築西義務教育学校サブアリーナの開放に向けて、予め利用団体と調整を図り、円滑に当該施設を開放することができました。		
次年度重点課題	社会体育施設の用途廃止等による活動場所の減少に伴い、義務教育学校における部活動時間帯の施設開放の要望が上がっているため、課題点等を整理し施設開放に向けて検討を行います。			
令和6年度 自己評価	<b>【評価の指標】</b>	<b>A</b>	<b>B</b>	<b>C</b>
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○	
評価の根拠	令和6年度については、おおむね予定通りに実施できました。			
<b>教育委員会評価</b>		<b>今回</b>	<b>B</b>	(前回) (B)

※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（基準） C：課題あり（低い）

主要施策	2	個性又は能力を育成する学校教育の充実
施策の内容	7	小中一貫教育への取組
<b>事業名</b> (予算/決算)	[17] 小中一貫教育推進事業 (学校教育課：教務係) (予算： - 千円 / 決算： - 千円)	
事業の概要	事業の目的	施設分離型の2中学校区と義務教育学校3校は、9年間を通じた系統的、継続的な学習指導や生徒指導を行います。この一貫した教育活動を行うことで、子どもたちに確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成を図ります。
	事業の内容	9年間を4-3-2制に区切って教育内容を構成します。特に、中期を中心に乗り入れ授業や異学年交流等を実施し、前期課程(小学校)から後期課程(中学校)へのスムーズな移行を図ります。
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	小中一貫本部会議(校長)の実施 : 年3回 小中一貫推進会議(主幹教諭・教務主任)の実施 : 年3回
	実績値 (目標値との比較)	小中一貫本部会議(校長)の実施 : 年3回 小中一貫推進会議(主幹教諭・教務主任)の実施 : 年3回
	重点課題	一貫教育の推進状況を検証・改善することにより、嘉麻市の教育課題の解決に寄与できるように働きかけます。
	課題への取組と成果	一貫教育本部会議(校長)、一貫教育推進会議(主幹教諭・教務主任)を年間3回行い、一貫教育の推進状況を検証・改善することができました。特に、施設分離型の2中学校区では、校区としての情報共有の会議の設定やランドデザインの作成等が行われ、連携が深まってきました。 また、福岡県重点課題研究指定委嘱校「香春思永館」を教育委員会及び義務教育学校職員が視察し、具体的取組に学ぶことができました。
	次年度重点課題	令和7年度版嘉麻市一貫教育の方針が各学校へ浸透するように、諸会議において提案し、実施状況を検証します。
令和6年度 自己評価	<b>【評価の指標】</b>	<b>A</b> <b>B</b> <b>C</b>
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)	○ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)	○ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	評価の根拠	毎学期1回ずつ一貫教育本部会議(校長)、一貫教育推進会議(主幹教諭・教務主任)を実施したことで、推進状況の検証・改善を行うことができました。令和6年度は、4-3-2制の導入2年目でしたが、全ての小・中・義務教育学校において中期生を中心に異学年交流や乗り入れ授業等の取組が行われました。その取組状況を会議の中で交流することにより、お互いに参考にしながら一貫教育を推進することができました。
<b>教育委員会評価</b>		今回 <b>A</b> (前回)   (A)

※評価の指標   A：期待以上(高い)   B：概ね期待どおり(基準)   C：課題あり(低い)

主要施策	2	個性又は能力を育成する学校教育の充実			
施策の内容	8	教育の機会均等の促進			
<b>事業名</b> (予算/決算)	[18] 就学援助事業 (学校教育課：教務係) (予算：94,550千円 / 決算：86,407千円)				
事業の概要	事業の目的	経済的理由により、就学困難な児童生徒及び特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者に対し、教育費の一部を負担します。			
	事業の内容	経済的理由により就学困難な児童生徒及び特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者に対し、教育費の一部を負担します。さらに、必要な援助が適切な時期に支給されるよう基準の見直しを随時行います。			
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	該当児童生徒への援助：実施			
	実績値 (目標値との比較)	該当児童生徒への援助 実施			
	重点課題	経済的理由により、就学困難な児童生徒の支援を最優先とするため、実情に応じた支援を行います。児童生徒の保護者に対して本事業について、市の広報等の情報発信による周知を行います。			
	課題への取組と成果	就学援助認定率は、48.1%でした。そのうち要保護率は5.8%、準要保護率は42.3%でした。 申請のあった該当児童生徒に対し、学用品費、給食費、修学旅行費等の教育費の一部を援助することができました。また、入学準備に必要な学用品費の一部を入学前の3月下旬に援助するため、12月から対象保護者に周知し、1月から申請受付を開始しました。次年度申請についても、2月に保護者へ周知しました。			
次年度重点課題	経済的理由により、就学困難な児童生徒の支援を最優先とするため、実情に応じた支援を行います。児童生徒の保護者に対して本事業について、市の広報等の情報発信による周知を行います。				
令和6年度 自己評価	<b>【評価の指標】</b>		<b>A</b>	<b>B</b>	<b>C</b>
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)			○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)			○	
	評価の根拠	<p>申請のあった該当児童生徒に対し、学用品費、給食費、修学旅行費等の教育費の一部を援助することができました。</p> <p>保護者への周知方法として、市の広報誌や市のホームページに掲載しています。在校生については、学校にてお知らせを配布し、学校からすぐメールを配信しお知らせしました。新小学1年生の保護者へは、お知らせ及び申請書等を郵送しており、入学説明会においても再度周知しております。また、読み書き等理解が困難な保護者に対しては、振り仮名を付記したお知らせに変更し配布および学校(事務職員、担任)を通じて保護者に説明を行いました。</p>			
<b>教育委員会評価</b>		<b>今回</b>	<b>B</b>	<b>(前回)</b>	<b>(B)</b>

※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（基準） C：課題あり（低い）

主要施策	2	個性又は能力を育成する学校教育の充実			
施策の内容	8	教育の機会均等の促進			
<b>事業名</b> (予算/決算)	[19] 奨学金事業 (教育総務課：教育総務係) (予算：9,715千円 / 決算：6,086千円)				
事業の概要	事業の目的	生活困窮者の学ぶ機会の支援並びに教育の機会均等の促進と、経済的負担の軽減を図ります。			
	事業の内容	①奨学資金貸付業務 ②奨学資金返還収納業務 ③奨学資金審議会事務 ④県教育文化奨学財団奨学金申請受付業務 など			
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	奨学資金貸付者数：20人 奨学資金返還金徴収率の向上 (令和6年度現年度分)：91%			
	実績値 (目標値との比較)	令和6年度新規貸付者数：5人 (1次募集5人、2次募集1人辞退) 奨学資金返還金徴収率の向上 (現年度分)：87.4%			
	重点課題	口座振替に加えコンビニ支払いの推進や納付相談等の個別対応、連帯保証人への請求などを実施しながら、滞納者への取組を強化していきます。また、入学支度金貸与制度の実施に向けて、調査・検討を行います。			
	課題への取組と成果	督促通知：11月、4月 (現年のみ) 納付相談：7件、納付計画：3件 長期滞納者、連帯保証人への催告を積極的に行ったところ、納付相談に結びつき、これを契機に滞っていた返還が開始したケースがあります。今後も催告等を積極的に実施してまいります。 また、懸案事項であった入学支度金貸与制度については、令和6年9月議会において条例改正を行い、令和7年度入学者分から実施する運びとなりました。現在までに6人の応募があつています。			
	次年度重点課題	滞納者対策の取組を強化し、長期滞納者への催告、連帯保証人への督促を積極的に行っていきます。			
令和6年度 自己評価	<b>【評価の指標】</b>	A B C			
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)				
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)				
評価の根拠	懸案事項であった入学支度金貸与制度については、令和7年度入学者分から実施する運びとなり、現在までに6人の応募があつており、順調な滑り出しができたものと考えています。 しかしながら、依然として滞納対策について課題があることから、今後は、滞納者対策の取組を強化し、長期滞納者、連帯保証人への催告を積極的に行っていくという意味で本評価といたしました。				
教育委員会評価		今回	B	(前回)	(B)

※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)

主要施策	3	豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進			
施策の内容	1	道徳性と自立心を養う心の教育の充実			
<b>事業名</b> (予算/決算)	[20] 道徳教育推進事業 (学校教育課: 教務係) (予算: - 千円 / 決算: - 千円)				
事業の概要	事業の目的	道徳教育及び「特別の教科 道徳」において、小・中・義務教育学校の前期課程と後期課程が連携しながら教員の実践力の向上を図ることにより、学校教育全体を通じて児童生徒の道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成を図ります。			
	事業の内容	各学校の「道徳教育の全体計画の作成及び実施」の指導や小中一貫教育を踏まえた道徳科学習に関する校内研修が実施できるように指導助言を行います。			
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	各学校「道徳教育の全体計画の作成・実施」: 改善・実施 道徳科に関する校内研修の実施: 実施			
	実績値 (目標値との比較)	各学校「道徳教育の全体計画の作成・実施」: 全ての学校 (100%) 道徳科に関する校内研修の実施: 全ての学校 (100%)			
	重点課題	令和6年度の小中一貫教育実施において、小・中・義務教育学校前期課程と後期課程が連携を強める取組を行い、内容項目について校種相互の系統性を理解した授業を実践するよう指導・助言を行います。			
	課題への取組と成果	道徳が教科化され小学校は7年目、中学校では6年目の取組でした。年間指導計画に基づいた授業実践の各学校への指導により、授業時数の量的確保はなされていましたが、ただし、道徳科の重点目標や内容項目についての系統性が不十分な点や議論する道徳科授業に向かうような授業計画や指導方法に課題があったため、各学校の校内研修で教職員の指導力向上につなげる指導・助言を行っているところです。			
次年度重点課題	小中一貫教育の完全実施3年目において、各学校の児童生徒の実態に応じた重点項目の設定や各学年の内容項目の系統性を考慮した指導計画及び学校行事や体験活動と関連付けた道徳学習を行うことで、道徳性の補充・深化・統合する授業となるよう、引き続き指導・助言を行います。				
令和6年度 自己評価	<b>【評価の指標】</b>	<b>A</b> <b>B</b> <b>C</b>			
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)	○			
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)	○			
評価の根拠	目標達成に係る指標は達成しています(令和6年度教育課程実施状況調査による)。ただし、小中一貫教育に向けた取組は不十分であり、各学校への継続した指導が必要です。さらに、校内研修以外でも、県教委主催の校外研修等で学んだ内容を校内へ還元するなど、更なる指導力向上の取組を推進する必要があります。				
<b>教育委員会評価</b>		<b>今回</b>	<b>B</b>	(前回)	(B)

※評価の指標 A: 期待以上 (高い) B: 概ね期待どおり (基準) C: 課題あり (低い)

主要施策	3	豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進
施策の内容	1	道徳性と自立心を養う心の教育の充実
<b>事業名</b> (予算/決算)	<b>[21] キャリア教育推進事業 (学校教育課：教務係)</b> (予算：185千円 / 決算：9千円)	
事業の概要	事業の目的	発達段階に応じて将来の社会人としての基盤づくりを支援し、子どもたちに社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力を身につかせ、自立した社会人の育成を図ります。
	事業の内容	それぞれの小・中・義務教育学校において、研修を通して自校で目指すキャリア教育について共通理解を図るとともに、4-3-2制に基づく系統的なキャリア教育や社会的・職業的自立に係る体験活動等を実施します。
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	キャリア教育についての研修の実施 (市内小・中・義務教育学校実施率100%) 4-3-2制に基づくキャリア教育の実施 (アンケート「4-3-2制に基づくキャリア教育の実施ができています」 4段階評価における評価3以上) 社会的・職業的自立に係る体験活動等の実施 (市内中・義務教育学校実施率100%)
	実績値 (目標値との比較)	キャリア教育についての研修の実施：77% 4-3-2制に基づくキャリア教育の実施：アンケート結果2.8 社会的・職業的自立に係る体験活動等の実施：100%
	重点課題	キャリア教育についての研修の確実な実施 社会的・職業的自立に係る体験活動等の確実な実施
	課題への取組と成果	教育指導計画や全体計画等をもとに、キャリア教育で育成すべき子どもの姿について確認するなど、多くの学校においてキャリア教育についての研修が実施されていました。 また、社会的・職業的自立に係る体験活動等について、職場体験学習やGTを招聘しての講話や職業についてインタビューする職業調べなど、全中・義務教育学校においてキャリア教育推進を行うことができました。 今後、4-3-2制に基づくキャリア教育が充実するよう、主幹教諭研修会等において、「嘉麻市小中一貫教育グランドデザイン」や「小中一貫教育9年間を見通したカリキュラムの軸」をもとに、嘉麻市におけるキャリア教育で目指す子どもの姿やキャリア教育の考え方について確認することを通して、各校におけるキャリア教育の充実に向けた年間指導計画の改善について指導助言を行っていきたいと考えます。
	次年度重点課題	4-3-2制に基づくキャリア教育の充実
令和6年度 自己評価	<b>【評価の指標】</b>	<b>A</b> <b>B</b> <b>C</b>
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)	○
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)	○
評価の根拠	キャリア教育についての研修が実施されているか調査を行ったところ、77%の学校(13校中10校 ※前後期は分けて算出)において実施されていました。 県で実施している教育課程実施状況調査をもとに、「職場体験学習の実施や代わりとなる学習の実施」について確認したところ、全中・義務教育学校において実施していました。	
<b>教育委員会評価</b>		<b>今回</b> <b>B</b> (前回)   (B)

※評価の指標    A：期待以上（高い）    B：概ね期待どおり（基準）    C：課題あり（低い）

主要施策	3	豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進			
施策の内容	2	健やかな心身をはぐくむ健康教育の充実			
<b>事業名</b> (予算/決算)	<b>[22] 学校保健事業 (学校教育課：教務係)</b> (予算：19,985千円 / 決算：19,597千円)				
事業の概要	事業の目的	児童生徒及び教職員の心身両面にわたる健康管理の徹底を図ります。また、事故、加害行為、災害等により、児童生徒に危険又は危害が生じた場合の対処として、災害共済に加入します。			
	事業の内容	児童生徒、教職員の健康診断を実施 市内の小・中・義務教育学校に学校医、学校歯科医、学校薬剤師を配置。 各学校において学校保健に関する年間計画を作成 災害共済加入手続きや給付金の支払業務実施			
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	健康診断：実施 学校保健年間計画作成：実施 災害共済加入：加入			
	実績値 (目標値との比較)	健康診断：実施 学校保健年間計画作成：実施 災害共済加入率：加入			
	重点課題	全ての児童生徒に健康診断を実施できるよう関係機関等との連携を図り、小・中・義務教育学校へ指導及び健康診断未受診者に対して啓発を重点的に行い、受診を促します。			
	課題への取組と成果	関係機関と連携を図り、小・中・義務教育学校へ指導や保護者への通知を行いました。また、児童生徒及び教職員の心身両面にわたる健康管理を徹底できるように、学校保健年間計画の見直しと検証を進めるよう指導しました。災害共済については、全ての児童生徒に対し、加入手続きや給付金の支払い業務を行いました。			
次年度重点課題	全ての児童生徒に健康診断を実施できるよう関係機関等との連携を図り、小・中・義務教育学校へ指導及び健康診断未受診者に対して啓発を重点的に行い、受診を促します。				
令和6年度 自己評価	<b>【評価の指標】</b>	<b>A</b>	<b>B</b>	<b>C</b>	
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○		
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○		
	評価の根拠	<p>全ての児童生徒に健康診断を実施できるよう、欠席した生徒には振替の検診日に受診するよう声かけや保護者への連絡を継続的に行い、また、「検査用の受診のお知らせ」の配布や、校医やかかりつけ医での受診を促すなどの取組を行っています。</p> <p>個人懇談を活用して、体調面で心配なことがないかの確認や受診状況などの個別対応も行っていきます。</p>			
<b>教育委員会評価</b>		<b>今回</b>	<b>B</b>	(前回)	(B)

※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（基準） C：課題あり（低い）

主要施策	3	豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進			
施策の内容	2	健やかな心身をはぐくむ健康教育の充実			
<b>事業名</b> (予算/決算)	<b>[23] 学校給食運営事業 (学校教育課：学校給食係)</b> (予算：292,789千円 / 決算：281,654千円)				
事業の概要	事業の目的	嘉麻市内小・中・義務教育学校で完全給食を行い、学校給食における衛生管理の徹底を図るとともに、魅力ある学校給食の充実に努め、「食事の重要性」等を身につける「食育」に関する教育を支援します。			
	事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・望ましい食習慣を養い、栄養の改善及び健康増進のため安全・安心な学校給食を実施するとともに、教職員への食育や衛生管理の研修を行うなど食の知識向上を図ります。</li> <li>・安全・安心な給食の提供を行うため、保健所等の立ち入り検査にて指導された事項について対応し、更なる衛生管理の徹底を図ります。</li> <li>・地産地消を継続推進し、利用率の向上を図ります。</li> <li>・安定した給食の提供のため、給食事業の民間委託を行います。</li> </ul>			
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	年間給食実施回数 190回 地場産食材利用率 30%			
	実績値 (目標値との比較)	年間給食実施回数 190回 地場産食材利用率 28.59%			
	重点課題	安全・安心な学校給食を実施し、衛生管理の徹底を図ります。また、「食の重要性」を身につける教育の支援を行います。地場産利用率については更なる利用率の向上を目指します。学校給食調理等の状況把握に努め、今後の民間委託の拡大に向け、業務内容の検証を行います。			
	課題への取組と成果	<p>年間190回の給食を実施し、1日約2,800食の提供を行いました。衛生管理に関する調理員研修を実施し、安全・安心な給食の提供向上に努めました。また、食のおたより「かまっ子」を年11回発行するなど、食育に関する資料の提供を実施いたしました。</p> <p>地産地消の推進に関しては、地元直売所等を通じ、地場産の利用に努めましたが、天候不順や物価高騰により冷凍野菜に置き換えることが多く、地場産利用率28.59%に留まりました。</p> <p>調理業務の民間委託に関しては、前年度に引き続き4校の民間委託を行いました。栄養教諭等の評価票により問題なく実施されていることを確認し、今後の民間委託継続に向けて事業を進めているところです。</p>			
次年度重点課題	安全・安心な学校給食を実施し、衛生管理の徹底を図ります。また「食の重要性」を身につける教育の支援を行います。地場産利用率については目標値の達成を目指します。また、翌年度以降の民間委託の継続・拡大に向けて受託事業者の選定を行います。				
令和6年度自己評価	<b>【評価の指標】</b>	A	B	C	
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○		
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)	○			
評価の根拠	安全・安心な学校給食を実施することができました。地場産利用については目標未達ではあるものの、積極的な利用促進に努めました。民間委託については、嘉麻市学校給食運営審議会からの答申を受け、今後の方向性を定めることができました。				
<b>教育委員会評価</b>		<b>今回</b>	<b>B</b>	(前回)	(A)

※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（基準） C：課題あり（低い）

主要施策	3	豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進			
施策の内容	2	健やかな心身をはぐくむ健康教育の充実			
<b>事業名</b> (予算/決算)	<b>[24] 学校給食費算定及び収納事業 (学校教育課：学校給食係)</b> (予算：317千円 / 決算：240千円)				
事業の概要	事業の目的	学校給食費は賄材料費の購入に要する経費のみを保護者負担としており、安全・安心な食材の購入等を行うため適正な算定を行い、適正な徴収業務を行うことで、受益者負担の公平性を確保します。			
	事業の内容	年間を通じた学校給食栄養価の確認と賄材料費の適切な執行を行います。未納通知や催告書の発送、訪問徴収当の実施及び高額滞納者に対して、納付相談の実施や児童手当からの引去り同意の取り交わしを実施します。			
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	現年度収納率 99.10% 過年度収納率 13.50%			
	実績値 (目標値との比較)	現年度収納率 99.37% 過年度収納率 20.54%			
	重点課題	受益者負担の公平性を確保するため、更なる収納率の向上を目指し、徴収業務を行います。物価高騰による賄材料費への影響を踏まえ、今後の給食費について検討します。			
	課題への取組と成果	未納通知や催告書の発送、電話による督促及び訪問徴収を行い、収納率向上への取組を実施しました。現年度(令和6年度)の収納率は99.28%(前年度99.19%)、過年度の収納率は20.54%(前年度17.08%)で、いずれも前年度に引き続き目標値の達成と前年度を上回る徴収率を達成することができました。 令和6年度も物価は高騰し続け、賄材料費のひっ迫は変わらない状況で、給食費改定に向けての情報収集、検討を行いました。また国が小学校の給食費無償化の実現にむけて検討を始めたため、情報収集を行いました。			
次年度重点課題	受益者負担の公平性を確保するため、更なる収納率の向上を目指し、徴収業務を行います。物価高騰による賄材料費への影響と、国の給食費無償化に向けた動向を踏まえ、今後の給食費のあり方について検討します。				
令和6年度 自己評価	<b>【評価の指標】</b>	<b>A</b> <b>B</b> <b>C</b>			
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)	○			
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)	○			
評価の根拠	未納通知等の発送と電話による督促、訪問徴収により収納率の目標を達成することができました。 賄材料費は物価高騰分として予算を確保でき、食材の購入を行うことができたものの、給食費改定については、情報収集や検討に留まりました。				
<b>教育委員会評価</b>		<b>今回</b>	<b>B</b>	(前回)	(B)

※評価の指標    A：期待以上（高い）    B：概ね期待どおり（基準）    C：課題あり（低い）

主要施策	3	豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進			
施策の内容	3	家庭・地域・学校における読書活動推進			
<b>事業名</b> (予算/決算)	<b>[25] 読書活動推進事業 (学校教育課：教務係)</b> (予算：31,536千円 / 決算：31,012千円)				
事業の概要	事業の目的	児童生徒の学習や読書意欲を高めるため、市立図書館や嘉麻市学校図書館協議会等との連携を図りながら、学校図書館の整備や図書司書機能の充実に努めるとともに、組織的、継続的な読書活動の推進に努めます。			
	事業の内容	図書館の管理運営、図書教育の指導補助、図書の受入れ、貸出し業務、書架の整理、廃棄業務、教科用図書関係事務等を行うため、図書司書を配置し、学校図書館の整備、充実を図っています。			
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	学校図書館での一人当たり貸出冊数：小・義務前期 56冊、 中・義務後期 15冊			
	実績値 (目標値との比較)	目標達成校：小・義務前期 8校中4校 中・義務後期 5校中3校			
	重点課題	学校図書館の管理運営を行うため、学校司書を配置し、図書館の整備、充実を図ります。貸出冊数の目標値を小学校56冊、中学校15冊と定め、読書量を増やすための取組を行います。特に中学校の読書量を増やすための取組が必要です。			
	課題への取組と成果	各学校に学校司書、図書整理員を配置し公立図書館との連携を図りながら図書館利用の促進、読書活動の充実を図りました。また、情報の収集・選択・活用能力を育成して、教育課程の展開に寄与する「学習・情報センター」として機能を果たすことができるよう蔵書を充実させ、授業で活用できるように整備を行いました。			
次年度重点課題	児童生徒一人当たりの年間貸出冊数の目標値を小学校58冊、中学校18冊と定め公立図書館との連携を図りながら読書量を増やす取組を行います。				
令和6年度 自己評価	<b>【評価の指標】</b>	<b>A</b> <b>B</b> <b>C</b>			
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)	○			
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)	○			
評価の根拠	全体では、半分以上の学校において目標値を達成することができました。しかしながら、目標を達成できなかった学校もあり、学校間の格差があります。引き続き公立図書館との連携を図りながら児童生徒の読書意欲を高める取組を行う必要があります。				
<b>教育委員会評価</b>		<b>今回</b>	<b>B</b>	(前回)	(B)

※評価の指標    A：期待以上（高い）    B：概ね期待どおり（基準）    C：課題あり（低い）

主要施策	3	豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進			
施策の内容	4	いじめ・不登校問題等の解決に向けた体制の充実			
<b>事業名</b> (予算/決算)	[26] 適応指導教室(れすとぴあ)推進事業 (学校教育課:教務係) (予算:9,754千円/決算:8,165千円)				
事業の概要	事業の目的	心理的又は情緒的理由により登校できない状態にある児童生徒の社会的自立を支援し、不登校児童生徒数の減少に取組みます。教育相談、体験活動、教科指導、集団生活への適応指導、学校生活及び社会生活に適応できるための助言や支援を行います。			
	事業の内容	教育相談、体験活動、教科学習、集団生活への適応指導、学校生活及び社会生活に適応できるための助言や支援を行います。			
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	社会体験活動の実施 : 実施 チャレンジ登校の実施 : 実施			
	実績値 (目標値との比較)	社会体験活動の実施 : 実施 チャレンジ登校の実施 : 実施			
	重点課題	学校との連携を密にし、個別の児童生徒のニーズに応じた支援・指導を行います。そのために、小・中・義務教育学校との情報共有を図ります。また、ICT(1人1台学習用端末カスタ)活用による支援の充実を図ります。			
	課題への取組と成果	野外活動として「ふるさと発見・市内探索」を行い、地域の「ひと・もの・こと」に関心を持たせました。さらに、園芸活動、絵付け体験活動、公共交通機関を利用したの社会科見学活動を実施し、集団生活や対人関係のスキルを学ばせました。 学習支援については、在籍校と連携した個別の教育支援計画に基づいて、学習の遅れや不安を取り除くよう個に応じた支援を行いました。また、ICT活用による支援も行いました。その結果、チャレンジ登校や主体的な学びへの意欲を高めることができました。			
	次年度重点課題	学校・家庭・関係機関と連携し、個々の児童生徒のニーズに応じた支援・指導を行います。			
令和6年度 自己評価	<b>【評価の指標】</b>		<b>A</b>	<b>B</b>	<b>C</b>
	実績値評価(当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○		
	課題への取組と成果(当該年度の取組における成果・効果)		○		
評価の根拠	嘉麻市の不登校児童生徒数は、昨年度より17人減の81人でした。適応指導教室におきましては、令和5年度末で27人、令和6年度末で15人の在籍数でした。そのような状況の中で3人の指導員が、個に応じた支援計画を作成し、教科指導や進路指導を丁寧に行いました。その結果、中学3年(9年)生7人全員が自己決定をし、進学をすることができました。また、チャレンジ登校は15人中7人が実施することができ、そのうち3人が学校復帰することができました。				
<b>教育委員会評価</b>		<b>今回</b>	<b>A</b>	(前回)	(B)

※評価の指標 A:期待以上(高い) B:概ね期待どおり(基準) C:課題あり(低い)

主要施策	3	豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進		
施策の内容	4	いじめ・不登校問題等の解決に向けた体制の充実		
<b>事業名</b> (予算/決算)	[27] 不登校対策支援事業 (学校教育課：教務係) (予算： - 千円 / 決算： - 千円)			
事業の概要	事業の目的	個々の不登校児童生徒の状況に応じた支援策等を行い、不登校児童生徒の学校復帰及び社会的自立を目的とします。また、未然防止のための取組を共有し、新規に不登校児童生徒を生まないことを目的とします。		
	事業の内容	各学校の担当者、子育て支援課、適応指導教室と連携をし、個々の不登校児童生徒の状況に応じた支援策等(児童生徒理解・支援シートの活用等)を共有する会議を行います。		
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	不登校児童生徒発生率：全国平均(3.72%)以下 ※令和6年度の数值は未公表のため、令和5年度の数值を使用 不登校支援会議：年3回以上 進路決定率(進学率)：100%		
	実績値 (目標値との比較)	不登校児童生徒発生率：3.34%(81名) 不登校支援会議：3回実施 進路決定率(進学率)：97.2%		
	重点課題	不登校予防に向けた早期の取組を充実させるために、不登校支援会議の早期開催と取組の検証を図り、実効性のある効果的な取組を市内小・中・義務教育学校で実施します。		
	課題への取組と成果	不登校支援会議(年間3回)を実施し、各学校における不登校の未然予防の取組や不登校児童生徒への支援内容、効果のある取組を市内小・中・義務教育学校で共有し、自校の取組の参考とするとともに、校内の支援体制の見直し等を図ることや不登校予防・学校復帰に向けた取組も指導・助言しました。その結果、小学校・中学校・義務教育学校で令和5年度98名→令和6年度81名と、17名減少させることができました。但し、新規の不登校児童生徒を生み出している課題が残りました。また、進路決定率(進学率)が、令和5年度の97.7%より0.5%下降し、100%に届いていない状況です。		
次年度重点課題	不登校の解消に向け、日々の未登校人数調査を活用した学校の傾向の分析や定期的な長期欠席生徒の実態把握と実行策を徹底することで、未然予防のための早期の取組を充実させます。また、関係機関との連携の仕方を工夫するなど、児童生徒の実態に応じた効果のある取組が実施できるように、不登校支援会議(年3回)を開催し、取組の検証と改善を図ります。			
令和6年度 自己評価	<b>【評価の指標】</b>	A	B	C
	実績値評価(当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○	
	課題への取組と成果(当該年度の取組における成果・効果)		○	
評価の根拠	不登校児童生徒発生率の目標達成にかかる指標は達成できています(令和6年度「いじめ・不登校等調査」及び事件・事故に関する報告による)。これは、不登校支援の効果的な取組を市内小中学校で共有することで、各小・中・義務教育学校における不登校支援の質的向上(マンツーマン対応、オンラインによる学習支援、保護者や関係機関との連携等)が推進されてきた成果と考えられます。しかし進路決定率(進学率)が達成できていない状況です。			
<b>教育委員会評価</b>	今回	B	(前回)	(B)

※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)

主要施策	3	豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進			
施策の内容	4	いじめ・不登校問題等の解決に向けた体制の充実			
<b>事業名</b> (予算/決算)	<b>[28] いじめ問題対策推進事業 (学校教育課：教務係)</b> (予算： - 千円 / 決算： - 千円)				
事業の概要	事業の目的	いじめの未然防止、早期発見、早期対応に向けて、学校の教職員が「いじめは、児童生徒にも、どの学校でも起こりうる」という危機意識をもち、いじめの問題の解消については「いじめられている児童生徒を最後まで守り抜く」という強い意識のもと、学校、家庭、地域社会、関係機関等が一体となって取組を推進します。			
	事業の内容	嘉麻市いじめ問題対策推進協議会をはじめ、校長会議や生徒指導主事研修会などを通して、いじめの未然防止、早期発見、早期対応についての周知及び取組の推進を行います。			
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	児童生徒質問紙 肯定的回答：100% いじめに特化した無記名アンケートの実施：年3回 いじめ問題に係る校内研修の実施：年1回以上			
	実績値 (目標値との比較)	児童生徒質問紙 肯定的回答：小・前 95.9% 中・後 96% いじめに特化した無記名アンケートの実施：全ての学校 (100%) いじめ問題に係る校内研修の実施：全ての学校 (100%)			
	重点課題	嘉麻市いじめ問題対策推進協議会の実施 (年間2回) や「嘉麻市立中学校におけるいじめ重大事態に関する再調査報告書における嘉麻市いじめ問題調査委員会からの提言 (再発防止策)」(以下 いじめ提言21) をもとにしたいじめの未然防止、早期発見、早期対応についての周知及び取組の推進を行います。			
	課題への取組と成果	嘉麻市いじめ問題対策推進協議会 (年間2回) を実施し、各学校におけるいじめ問題への未然防止の取組や校内の支援体制の見直し等を図ることへの指導内容を整理しました。また、校長会議を通して、いじめ提言21をもとにしたいじめの未然防止、早期発見、早期対応についての周知及び取組の推進を行いました。			
次年度重点課題	いじめの未然防止、早期発見、早期対応をしていくために、生徒指導主事研修会を年度当初に開催し、認知の流れや疑いを含めた認知のお願いなどを周知していきます。また、いじめ提言21を校長会議や生徒指導主事研修会を通して周知及び取組の推進を行います。				
令和6年度自己評価	<b>【評価の指標】</b>	<b>A</b>	<b>B</b>	<b>C</b>	
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○		
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○		
評価の根拠	目標達成にかかる指標が達成できていません (令和6年度全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙の結果による)。今後も、いじめに対する児童生徒及び教職員の認識度を向上させていくために、啓発及び取組を推進する必要があります。				
<b>教育委員会評価</b>		<b>今回</b>	<b>B</b>	(前回)	(B)

※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)

主要施策	3	豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進			
施策の内容	5	家庭・地域の教育力を高める支援体制の充実			
<b>事業名</b> (予算/決算)	<b>[29] 郷土を愛する子どもの育成事業 (学校教育課：教務係)</b> (予算：1,006千円 / 決算：701千円)				
事業の概要	事業の目的	ふるさと嘉麻を胸に志を持ち、社会にはばたく子どもたちを育成するために、地域の「ひと・もの・こと」を活用したふるさと学習を各学校で行います。			
	事業の内容	各学校において、「地域教材カリキュラム」を基に、「嘉麻かるた」等の教材を活用し、嘉麻市の自然・歴史・文化・先人の功績等を学びます。			
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	学習アンケートの実施 : 4・7・9年生に実施 嘉麻かるた・ふるさと学習教材集の活用 : 活用			
	実績値 (目標値との比較)	学習アンケートの実施 : 4・7・9年生に実施 嘉麻かるた・ふるさと学習教材集の活用 : 活用			
	重点課題	嘉麻かるた・ふるさと学習教材集の活用を通して、郷土を愛する子どもを育成します。			
	課題への取組と成果	「地域教材カリキュラム」については、各学校の「総合的な学習の時間」の年間計画の中に、取り入れられる内容について位置づけてもらいました。 また、各教科との関連で学習する等学校の実態に合わせて、嘉麻市の自然・歴史・文化・先人の功績等を学んでいます。特に「嘉麻かるた」については、教職員への周知・理解も進み、児童生徒への活用が進んでいます。			
	次年度重点課題	「地域教材カリキュラム」の更なる周知・理解を進めます。さらに、「嘉麻かるた」の活用を啓発し、郷土を愛する児童生徒の育成を図ります。			
令和6年度 自己評価	<b>【評価の指標】</b>	<b>A</b> <b>B</b> <b>C</b>			
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)	○			
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)	○			
評価の根拠	<p>「地域教材カリキュラム」と「嘉麻かるた」を活用しながら、各学校ふるさと学習に取り組むことができました。校区内の教材を中心とした学習内容から嘉麻市全体をふるさととして捉えて学習を展開していくようになったことは、大きな成果です。</p> <p>「嘉麻かるた」の活用については、学校全体あるいは学年での「かるた大会」を実施する等、かなり浸透してきました。ふるさと学習の定着度を図るアンケートを実施していますので、今後は嘉麻かるたの積極的活用も大いに期待されます。</p>				
<b>教育委員会評価</b>		<b>今回</b>	<b>A</b>	<b>(前回)</b>	<b>(A)</b>

※評価の指標    A：期待以上（高い）    B：概ね期待どおり（基準）    C：課題あり（低い）

主要施策	3	豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進		
施策の内容	5	家庭・地域の教育力を高める支援体制の充実		
<b>事業名</b> (予算/決算)	<b>[30] 家庭教育支援事業 (生涯学習課：社会教育係)</b> (予算：174千円 / 決算：94千円)			
事業の概要	事業の目的	子育て家庭の孤立を防ぎ、地域活動を通して子育て家庭と地域の人たちの交流や保護者同士の交流を図り、地域ぐるみで子育て家庭を支援する体制づくりを目指します。		
	事業の内容	①メディアが及ぼす影響・対策に関する啓発活動等 (メディア講座) ②屋外体験事業 (ミニプレーパーク事業)		
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	メディア啓発講座実施校数 (小学校) : 5校 メディア啓発講座実施校数 (中学校) : 2校 メディア啓発講座実施校数 (義務教育学校) : 3校		
	実績値 (目標値との比較)	メディア啓発講座実施校数 (小学校) : 5校 メディア啓発講座実施校数 (中学校) : 2校 メディア啓発講座実施校数 (義務教育学校) : 3校		
	重点課題	SNS等から犯罪につながるが多くなっており、社会問題化していることから、自分への身体的影響と社会的影響についての情報提供を含めたメディア啓発を行っていく必要があります。		
	課題への取組と成果	保育園、小中学校、義務教育学校等の児童・生徒、保護者及び教職員を対象にメディア接触についての情報提供及び啓発を行いました。また、乳幼児健診や保育園を通じてリーフレット配布や啓発を行いました。 ・メディア啓発活動、講座、情報提供 [73回：対象者1,791人] ・屋外体験事業 ミニプレーパーク [6回：親子45組157人] ・公民館事業での啓発活動 [5回：親子95組408人]		
次年度重点課題	SNS等の利用に関連したいじめ・事件などを防ぐためにも、情報リテラシーについて保護者も一緒に早い段階から伝えていく必要があるため、情報展開をどのように行うかが課題と考えます。			
令和6年度 自己評価	<b>【評価の指標】</b>	<b>A</b>	<b>B</b>	<b>C</b>
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○	
評価の根拠	<p>保育園では保育参観、小中学校、義務教育学校では入学・進級説明会や授業、施設での研修において児童生徒、保護者及び教職員を対象にメディア接触についての情報提供及び啓発を行いました。屋外体験事業では気軽に参加できる場として認識されているところですが、より広く周知活動を展開するための振り返りと改善を要すると考えます。</p> <p>昨年度は、コロナ禍直後の事業を推進する必要があったことから一定の集客を達成したことなど総合的に勘案して評価をしておりましたが、今年度については一定の集客ができたもののコロナ禍の影響も薄れてきたところでの取り組みなどを検討し、当該評価としております。</p>			
<b>教育委員会評価</b>	<b>今回</b>	<b>B</b>	(前回)	(A)

※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（基準） C：課題あり（低い）

主要施策	3	豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進
施策の内容	5	家庭・地域の教育力を高める支援体制の充実
<b>事業名</b> (予算/決算)	<b>[31] 青少年健全育成事業 (生涯学習課：社会教育係)</b> (予算：1,286千円 / 決算：964千円)	
事業の概要	事業の目的	青少年問題に関わる関係機関や団体はもとより、学校、家庭、地域が連携をより強化し、社会全体の取組として青少年の健全育成を図ります。
	事業の内容	①少年相談センター業務 ②少年補導委員委嘱による巡回指導
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	少年補導委員研修会開催数：1回 巡回補導回数(年間)：24回
	実績値 (目標値との比較)	少年補導委員研修会開催数：1回 巡回補導回数(年間)：24回
	重点課題	少年補導委員への継続的な支援を行います。また、青少年の健全育成に向けて、より効果的な活動となるよう、委員の資質の向上を図る研修を実施します。
	課題への取組と成果	・少年相談センター業務 電話相談件数 0件 少年相談センターへの相談はありませんでした。 令和6年度については、専用電話回線を廃止し、音声ガイダンスにて専門機関等への案内を行ったほか、社会教育係においても相談受付をできるように改善しております。 ・少年補導委員の委嘱 委嘱人数 27名 少年補導委員を対象とした研修会は、性的少数者への理解を深めるため、LGBTQをテーマに開催しました。巡回指導については、継続した支援を行うことにより、目標値を達成できました。
	次年度重点課題	少年補導委員の高齢化が進み、委員数が減少傾向にあるため、委員の確保に努めるほか、今後の運営体制を検討する必要があります。
令和6年度 自己評価	<b>【評価の指標】</b>	<b>A</b> <b>B</b> <b>C</b>
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)	
評価の根拠	電話相談窓口を開設することの意義について見直すべき段階にもあるとのご指摘もあり、その上で青少年健全育成のために市民に必要とされる支援の在り方についての検討が求められていると考えています。 一方で少年補導委員については継続的な支援を行い、巡回活動の充実が図れたことにより、目標値を達成することができ重大事案の発生抑止につながったものと考えていることから当該評価としております。	
<b>教育委員会評価</b>		<b>今回</b> <b>B</b> (前回) (B)

※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（基準） C：課題あり（低い）

主要施策	3	豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進			
施策の内容	6	男女共同参画教育の推進			
<b>事業名</b> (予算/決算)	<b>[32] 学校における男女共同参画推進事業</b> <b>(学校教育課：教務係)</b> (予算： - 千円 / 決算： - 千円)				
事業の概要	事業の目的	男女共同参画の意識づくりをする上で、家庭や学校・地域での教育が重要であり、「嘉麻市男女共同参画推進条例」の理念に基づき、男女共同参画の趣旨や必要性について、教育を通して意識改革と啓発を促進します。			
	事業の内容	学校教育の場においては、指導者の共通認識のもとに男女平等の教育の体制をつくり、男女平等の視点から習慣・行事等の見直し、固定的性別役割分担にとらわれない指導を進めます。			
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	男女共同参画に関する授業の実施：10校（全校で実施）100%			
	実績値 (目標値との比較)	男女共同参画に関する授業の実施：10校（全校で実施）100%			
	重点課題	男女共同参画の視点に基づいた授業や校内での研修等について、更に推進していくよう各学校に働きかける必要があります。			
	課題への取組と成果	<p>嘉麻市男女共同参画推進条例を分かりやすく解説した「学ぼうそして行動しよう」の小冊子を活用した授業を実施するとともに、引き続き、男女共同参画を意識した教育課程の編成を推進するよう各学校に働きかけを行いました。</p> <p>その結果、小学校・義務教育学校前期では家庭科や社会科、理科、生活科、学級活動等で、中学校・義務教育学校後期では社会科、道徳科等で男女共同参画の視点に基づいた授業が実施されています。特に、小学校1校において、男女共同参画推進課の職員や男女共同参画推進に係る関係者が参観した公開授業を行うことができ、反省会を実施することができました。その他、校内研修（教職員研修）においても、男女共同参画に係る研修を実施しています。</p>			
次年度重点課題	教職員の嘉麻市男女共同参画推進条例に基づく校内研修を計画的に実施するとともに、男女共同参画の視点に基づいた授業づくりを推進していく必要があります。				
令和6年度 自己評価	<b>【評価の指標】</b>	<b>A</b>	<b>B</b>	<b>C</b>	
	実績値評価（当該年度の目標値に対する達成度・進捗度）		○		
	課題への取組と成果（当該年度の取組における成果・効果）		○		
評価の根拠	<p>「学ぼうそして行動しよう」の小冊子を活用した授業を実施した学校は10校中8校で実施され、残りの2校は冊子の活用はないものの、男女共同参画の視点に基づいた授業を実施しています。その結果、運動会などの学校行事で、男女の性別に関係なく協力して取り組む様子が見られるようになりました。特に、中学校や義務学校後期課程では、普段の何気ない学校生活の中での会話などから男女共同参画社会を実現する意識の変容がみられるようになりました。</p> <p>また、研修や諸会議を通じた各学校での共通理解も図られています。</p>				
<b>教育委員会評価</b>		<b>今回</b>	<b>B</b>	(前回)	(B)

※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（基準） C：課題あり（低い）

主要施策	3	豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進			
施策の内容	6	男女共同参画教育の推進			
<b>事業名</b> (予算/決算)	<b>[33] 地域社会における男女共同参画推進事業</b> <b>(生涯学習課：社会教育係)</b> (予算： — 千円 / 決算： — 千円)				
事業の概要	事業の目的	家庭の中や地域活動における固定的な性別役割分担意識に基づく慣習・慣行の見直しを推進し、男女共同参画の啓発を行うとともに、講座を実施する中で性別役割分担意識の解消に繋がります。			
	事業の内容	社会教育における事業や講座を通して、男女共同参画の趣旨や必要性について意識啓発を行うとともに、性別役割分担意識の解消に努めます。			
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	啓発活動の実施：5回			
	実績値 (目標値との比較)	啓発活動の実施：5回			
	重点課題	男女共同参画の意識の涵養に向けて、子ども向けの事業において、職業や行動等は性別で決められるものではないこと等の啓発に努めます。			
	課題への取組と成果	第3次嘉麻市男女共同参画社会基本計画に基づき、公民館講座では男性を対象とした家事講座や介護講座を開催。家庭教育支援事業では子育て家庭の交流の場を提供した事業を開催したことで、家庭の中や地域活動における固定的な性別役割分担意識の解消に努めました。また、男女共同参画課と市内図書館（4館）との共同事業で6月、11月と啓発活動として展示を行いました。 ・男性のための家事講座（全3回）14名参加 ・男性のための健康ストレッチ講座（全4回）8名参加 ・「男女共同参画週間」展示 6月19日～26日 ・「カラフルリレー 色でつながり人でつながる」展示 11月1日～30日			
	次年度重点課題	男女共同参画の趣旨や啓発に繋がる事業・講座の実施を検討し、社会教育における男女共同参画を図る必要があります。			
令和6年度 自己評価	<b>【評価の指標】</b>				
	実績値評価（当該年度の目標値に対する達成度・進捗度）	A	B	C	
	課題への取組と成果（当該年度の取組における成果・効果）		○		
	評価の根拠	男性を対象とした家事講座や介護講座並びに子育て家庭の交流の場を提供した事業を開催したことで、家庭の中や地域活動における固定的な性別役割分担意識に基づく慣習・慣行の見直しが浸透し、啓発活動の一躍となるとともに、社会教育における男女共同参画が図られていくことに繋がっていると考えていることから当該評価としています。			
<b>教育委員会評価</b>		今回	B	(前回)	(B)

※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（基準） C：課題あり（低い）

主要施策	4	生涯学習の実現を目指す社会教育の推進
施策の内容	1	学習機会の提供及び学習成果の活用促進
<b>事業名</b> (予算/決算)	<b>[34] 生涯学習推進事業 (生涯学習課：社会教育係)</b> (予算：26,207千円 / 決算：24,335千円)	
事業の概要	事業の目的	市民が学習した成果を地域で活用し、更なる学びや生きがいに繋がる「知の循環型社会」を構築することにより、お互いに学び合い、生きがいのある豊かな地域社会をつくりまします。
	事業の内容	①内外研修による職員の資質向上 ②ボランティア人材バンクの活用
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	・ボランティア人材バンク派遣回数：20回 ・社会教育関係団体への支援：20回
	実績値 (目標値との比較)	・ボランティア人材バンク派遣回数：36回 ・社会教育関係団体への支援：26回
	重点課題	・ボランティア人材バンクへの登録者が増える中、ボランティア人材派遣の周知が必要になっていると考えます。 ・社会教育関係団体への支援に関しては、支援の方法を考え、各団体の状況に応じた対策が必要と考えます。
	課題への取組と成果	・ボランティア人材バンクの派遣は、計画を上回っていることからより多くの派遣要請へ繋げられるよう周知を行います。 ・社会教育関係団体への支援については、団体の状況に応じた支援が行えているものと考えます。一方で、行政側の支援ありきといった体制になっている団体もあることからどのように対応すべきか検討を行う必要があります。
	次年度重点課題	・ボランティア人材バンクの周知方法を検討する必要があります。 ・社会教育団体への自立を促すため、職員の資質向上が必要と考えます。
令和6年度 自己評価	<b>【評価の指標】</b>	<b>A</b> <b>B</b> <b>C</b>
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)	
	評価の根拠	評価については、目標値を上回っていることから一定の成果を上げているものと考えますが、ボランティア人材バンクの更なる活用や社会教育団体への支援の在り方をより検証していく必要があることから、当該評価としております。 特にボランティア人材バンクの派遣については、登録者と要請者の生涯学習の更なる推進のため、より多くの派遣要請が行われる必要があると考えます。
<b>教育委員会評価</b>		<b>今回</b> <b>B</b> (前回)   (B)

※評価の指標    A：期待以上（高い）    B：概ね期待どおり（基準）    C：課題あり（低い）

主要施策	4	生涯学習の実現を目指す社会教育の推進		
施策の内容	1	学習機会の提供及び学習成果の活用促進		
<b>事業名</b> (予算/決算)	<b>[35] 社会教育施設整備事業 (生涯学習課：社会教育係)</b> (予算：68,303千円 / 決算：58,995千円)			
事業の概要	事業の目的	地域の生涯学習の拠点である社会教育施設の適切な維持管理運営を行い、市民の教育・文化の向上と生きがいに繋がります。		
	事業の内容	社会教育施設の定期的な点検や修繕などの維持管理を行います。		
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	施設利用者数：27,100人		
	実績値 (目標値との比較)	施設利用者数：21,495人		
	重点課題	年次計画に基づいた必要最小限の修繕等を適切に行います。また、廃止を含めた施設の運営管理を継続して協議する必要があります。		
	課題への取組と成果	経費節減のため、年次計画に伴う修繕及び必要最小限の修繕に努めました。令和6年度をもって社会教育施設の1つを用途廃止し、経費の圧縮に努めます。 個別施設見直し計画に基づく施設用途廃止・解体等に向けて、利用団体等と協議を進めています。今後も施設を利用されている団体への説明等も続けていきます。		
次年度重点課題	経年劣化のほか、突発的な故障等による修繕費の支出も増加傾向にあります。施設の方向性を前提に、計画的な維持補修を行い、管理運営を行う必要があります。			
令和6年度 自己評価	<b>【評価の指標】</b>	<b>A</b>	<b>B</b>	<b>C</b>
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)			○
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○	
	評価の根拠	施設利用者の安全面を考慮し、緊急性の高いものから整備を行い、また、その他保守点検結果を精査し、必要最小限の補修等を行っております。 施設利用者数については目標値を未達としており、令和6年度をもって1施設を用途廃止にしたことから、利用者の増加はさらに困難になると考えております。既存施設での利用者増加を検討していくものの、今後も行財政改革に伴う個別施設の見直し計画・方針に基づき、適正な施設管理を検討しなければならないと考えております。		
<b>教育委員会評価</b>		<b>今回</b>	<b>B</b>	(前回) (B)

※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（基準） C：課題あり（低い）

主要施策	4	生涯学習の実現を目指す社会教育の推進
施策の内容	1	学習機会の提供及び学習成果の活用促進
<b>事業名</b> (予算/決算)	<b>[36] 公民館事業 (生涯学習課：中央公民館係)</b> (予算：10,122千円 / 決算：8,568千円)	
事業の概要	事業の目的	地域住民相互の交流と教養の向上、さらには健康増進を図り、地域住民の生きがいがづくり、地域コミュニティの醸成を目的とします。
	事業の内容	教育・文化に関する各種事業や地域住民参加型の事業を実施します。
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	公民館講座・教室等 (中央公民館・地区公民館4館)：18事業 地域住民との協働事業 (地区公民館4館)：16事業 青少年体験活動 (地区公民館4館)：8事業 自主サークル団体の設立支援：2団体
	実績値 (目標値との比較)	公民館講座・教室等 (中央公民館・地区公民館4館)：25事業 地域住民との協働事業 (地区公民館4館)：18事業 青少年体験活動 (地区公民館4館)：14事業 自主サークル団体の設立支援：2団体 ※他地区活動サークルへの入会：1団体
	重点課題	地域の実情に即した各種事業を実施するとともに、地域住民との協働事業においては、地域と学校を繋ぐ事業も推進し、地域コミュニティの醸成や維持する力を育成する必要があります。
	課題への取組と成果	各種スポーツ大会をはじめ、各地区公民館分館とも協働し夏・冬休み期間を利用した「ときめき学習」や「通学合宿」など、地域住民がこどもたちと一緒に活動するなど、青少年育成や地域住民の生きがいの場の提供ができました。また、公民館講座や教室の開催は目標値以上に開催でき、受講生同士で自主サークルを設立するなど、本年度も地域住民の交流、教養の向上がはかれました。
	次年度重点課題	社会や人々の生活の変化に応じたニーズの把握に努め、常に多様な視野から講座等を立案していく必要があります。
令和6年度 自己評価	<b>【評価の指標】</b>	<b>A</b> <b>B</b> <b>C</b>
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)	○
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)	○
評価の根拠	<p>目標値以上の事業や活動が実施できており、特に地域住民との協働事業は各種スポーツ大会や公民館祭り、さらには青少年体験活動推進事業と併せたときめき学習及び通学合宿の再開により活気づいてきました。</p> <p>公民館講座や教室では、昨年度同様人権、文化、防災などの地域課題に関連した内容で実施できましたし、自主サークルが2団体設立されたこと、また他地区活動サークルへの入会されたことなども評価しています。</p> <p>以上のことから、今回も昨年同様の評価としています。</p>	
<b>教育委員会評価</b>		<b>今回</b> <b>A</b> (前回)   (A)

※評価の指標    A：期待以上（高い）    B：概ね期待どおり（基準）    C：課題あり（低い）

主要施策	4	生涯学習の実現を目指す社会教育の推進	
施策の内容	1	学習機会の提供及び学習成果の活用促進	
<b>事業名</b> (予算/決算)	<b>[37] 分館・自治公民館活動支援事業</b> <b>(生涯学習課：中央公民館係)</b> (予算：9,693千円 / 決算：9,235千円)		
事業の概要	事業の目的	公民館は地域住民にとって一番身近な地域コミュニティの拠点となることから、分館や自治公民館の活動等を支援することを目的とします。	
	事業の内容	①公民館関係者を対象とした研修会等の開催及び参加 ②分館長・自治公民館長会議の開催 ③分館・自治公民館活動への補助金交付 ④自治公民館修繕等への補助金交付 ⑤嘉麻市コミュニティの形成に係る方向性の決定	
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	研修会の開催及び参加：4回 分館長・自治公民館長会議の開催：2回 分館・自治公民館活動への補助金交付：7,486千円 自治公民館修繕等への補助金交付：1,000千円 嘉麻市コミュニティの形成に係る方向性の決定：協議	
	実績値 (目標値との比較)	研修会の開催及び参加：3回 分館長・自治公民館長会議の開催：9回 分館・自治公民館活動への補助金交付：7,150千円 自治公民館修繕等への補助金交付：1,254千円 嘉麻市コミュニティの形成に係る方向性の決定：協議継続中	
	重点課題	引き続き目標値通りの研修会や会議を開催するとともに、本市の今後のコミュニティの在り方について市の方針等が示されるよう検討会議で協議を行う必要があります。	
	課題への取組と成果	公民館関係者を対象とした研修会は概ね計画通りに参加でき、市外地域の取組事例等知識の向上が図られるとともに、地区・分館・自治公民館長会議は計画通り開催し情報共有が図られました。また、公民館活動への補助金交付等についても適正に交付し、分館・自治公民館活動を支援できました。	
	次年度重点課題	市の現状や市のコミュニティの方向性と併せ、今後の地域コミュニティの在り方について、意見を交換、聴取する必要があります。	
令和6年度 自己評価	<b>【評価の指標】</b>	<b>A</b> <b>B</b> <b>C</b>	
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		
評価の根拠	概ね期待どおりの会議の開催や研修会への参加により情報共有や公民館職員の資質向上が図られたこと、また補助金を適正に交付したことでの分館や自治公民館の活動への支援ができ、施設の維持管理も適切に行われたことを評価しています。 また、本市のコミュニティの在り方について全庁的に会議が開かれていくことも評価しています。 以上を踏まえ、概ね期待どおりの評価からBとしています。		
<b>教育委員会評価</b>	<b>今回</b>	<b>B</b>	(前回) (A)

※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（基準） C：課題あり（低い）

主要施策	4	生涯学習の実現を目指す社会教育の推進			
施策の内容	1	学習機会の提供及び学習成果の活用促進			
<b>事業名</b> (予算/決算)	<b>[38] 公民館施設等維持管理事業</b> <b>(生涯学習課：中央公民館係)</b> (予算：149,864千円 / 決算：122,308千円)				
事業の概要	事業の目的	公の公民館施設等の適正な維持管理を行うことを目的とします。			
	事業の内容	①中央公民館、地区公民館、分館の定期的な点検や計画的な修繕 ②類似公民館（市所有分）の老朽化した箇所などの修繕			
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	嘉穂生涯学習センター夢サイトかほ：設計 山田生涯学習館：改修			
	実績値 (目標値との比較)	嘉穂生涯学習センター夢サイトかほ：設計完了 山田生涯学習館：改修完了			
	重点課題	市の財政状況の中での実施予算の確保が課題であり、修繕や改修の優先順位等整理するなどして、計画的に実施していく必要があります。			
	課題への取組と成果	設備の経年劣化による修繕及び建物自体の長寿命化について、改修工事の実施や改修工事設計ができました。 また、類似公民館施設においても、老朽化した箇所の修繕等を行い、施設の適正な維持に努めることができました。			
次年度重点課題	市の財政状況を踏まえ、修繕や改修の優先順位等を整理するなど計画的に実施していく必要があります。				
令和6年度 自己評価	<b>【評価の指標】</b>	<b>A</b>	<b>B</b>	<b>C</b>	
	実績値評価（当該年度の目標値に対する達成度・進捗度）		○		
	課題への取組と成果（当該年度の取組における成果・効果）		○		
評価の根拠	中央公民館、地区公民館、分館の定期的な点検や計画的な修繕を行うことができたことを評価しています。 また、類似公民館施設（市所有分）の老朽化に伴う修繕等も行うことができたことも評価しています。 以上を踏まえ、今回Bとしています。				
<b>教育委員会評価</b>		<b>今回</b>	<b>B</b>	<b>(前回)</b>	<b>(一)</b>

※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（基準） C：課題あり（低い）

主要施策	4	生涯学習の実現を目指す社会教育の推進
施策の内容	1	学習機会の提供及び学習成果の活用促進
事業名 (予算/決算)	<b>[39] 稲築地区公民館施設等整備事業</b> <b>(生涯学習課：中央公民館係 (公民館建設担当))</b> 繰越明許 (予算：104,778千円 / 決算：34,531千円) 現年度 (予算：1,180,806千円/決算：4,142千円)	
事業の概要	事業の目的	持続可能な開発目標 (SDGs) を踏まえ、地域住民の生涯学習を基軸に、地域コミュニティの醸成が図られ、地域福祉活動の場としても利用できる交流拠点、さらには防災拠点となる公民館施設等を整備します。
	事業の内容	基本設計には地域住民の意見を反映し、実施設計、建設工事を行います。
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	地域住民の意見を反映した基本設計並びに実施設計を行います。 建設工事に関連する附帯工事の設計や工事に着手します。
	実績値 (目標値との比較)	地域住民等から構成された意見聴取検討会を開催し意見を反映した基本設計を行いました。また、基本設計に基づいた実施設計も行い、建設工事に関連する附帯工事の設計や工事を行いました。
	重点課題	建設工事を含む関連経費を12月補正予算に計上する必要があります。 また、建設用地確保に向けた関連工事に着手する必要があります。
	課題への取組と成果	建設工事に向けて次の取組等を行いました。 ・稲築地区公民館等施設整備基本計画意見聴取検討会の開催 2回 ・基本設計並びに実施設計業務における工程会議等 約30回 ・建設工事費等を12月補正予算に計上し承認 ・稲築地区公民館等建設工事設計業務委託 R5.11.6～R7.1.31 ・稲築地区公民館敷地内通路設計業務委託 R6.8.8～R7.1.17 ・稲築庁舎跡等路盤工事 (仮設駐車場工事) R7.2.17～R7.3.14 ・稲築公民館前倉庫解体撤去工事監理業務委託 R7.2.3～ (*R7.6.30) ・稲築公民館前倉庫解体撤去工事 R7.2.25～ (*R7.6.27) ・稲築地区公民館建設工事監理業務委託 R7.3.24～ (*R8.3.31)
	次年度重点課題	令和8年5月予定の新公民館供用開始に向け、工事等に係る進捗状況の把握や工事工程における諸問題などに対応する必要があります。
令和6年度 自己評価	<b>【評価の指標】</b>	<b>A</b> <b>B</b> <b>C</b>
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)	○
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)	○
	評価の根拠	建設工事に向けてやるべき業務が計画どおりに遂行できたためです。
<b>教育委員会評価</b>		<b>今回</b> <b>B</b> (前回)   (一)

※評価の指標    A：期待以上 (高い)    B：概ね期待どおり (基準)    C：課題あり (低い)

主要施策	4	生涯学習の実現を目指す社会教育の推進			
施策の内容	2	図書館の利用促進			
事業名 (予算/決算)	<b>[40] 図書館施設管理運営事業</b> <b>(生涯学習課：文化推進係)</b> (予算：一 千円 / 決算：一 千円)				
事業の概要	事業の目的	図書館施設及び図書館システムを適切に管理運営することにより、読書環境の整備・充実を図り、快適かつ安心して利用できる図書館サービスを提供することを目的とします。			
	事業の内容	① 図書館施設の維持管理及び図書館システムの更新 ②選書等資料の管理 ③配本車の巡回 ④移動図書館車の運行 ⑤図書館だよりの発行 など			
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	年間施設利用者数：41,140人 年間貸出冊数：136,380冊 市民一人当たり貸出冊数：3.68冊 移動図書館車の巡回ステーション数：38箇所			
	実績値 (目標値との比較)	施設利用者数：38,600人 年間貸出冊数：124,888冊 市民一人当たり貸出冊数：3.44冊 移動図書館車の巡回ステーション数：39箇所			
	重点課題	電子図書館を含めた読書バリアフリーに関する取組等について、調査研究を行い、実現に向けての準備を行う必要があります。			
	課題への取組と成果	本年度は、「誰もが読書にアクセスできる環境の整備」を目指し、電子図書館のトライアル版の実施の他、読書バリアフリーの推進に向けた協議・検討を行いました。 電子図書館の導入については、追加費用の確保が困難なことから、令和7年度の実施は見合わせましたが、引き続き、利用者ニーズや費用対効果を踏まえ、調査研究を継続していきます。その他、多様な利用者が使えるように配慮した読書バリアフリー推進のための図書コーナーである「りんごの棚」の設置や音訳資料の紹介等を行いました。			
次年度重点課題	図書館システムの更新を迎えるにあたり、指定管理者及びシステム業者との連絡調整をこまめに実施し、準備を進める必要があります。				
令和6年度 自己評価	<b>【評価の指標】</b>		<b>A</b>	<b>B</b>	<b>C</b>
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)			○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)			○	
評価の根拠	「実績値評価」については、目標値には達しなかったものの、概ね目標に近い水準に達しており、実績値評価はB評価としました。 「課題への取組と成果」については、電子図書館の導入には至りませんでした。また、トライアル版の実施や調査研究を進めるなど、取組を進めました。また、「りんごの棚」の設置等の取組も実施したことから、B評価としました。				
<b>教育委員会評価</b>		今回	B	(前回)	(B)

※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（基準） C：課題あり（低い）

主要施策	4	生涯学習の実現を目指す社会教育の推進			
施策の内容	2	図書館の利用促進			
<b>事業名</b> (予算/決算)		<b>[41] 読書活動推進事業 (生涯学習課：文化推進係)</b> (予算：一 千円 / 決算：一 千円)			
事業の概要	事業の目的	おはなし会・講座・読書講演会等、市民の読書活動のきっかけづくりとなる事業を開催し、読書活動の推進及び図書館利用の促進を図ることを目的とします。			
	事業の内容	①ブックスタート事業 ②絵本ですくすく講座 ③赤ちゃんタイム ④朝の読書活動支援 (小学校) ⑤ブックトーク (小・中学校、土曜未来塾) ⑥定例おはなし会及びおはなし工作会 ⑦夏休みイベント ⑧一日図書館員⑨職場体験の受入れ ⑩図書館教養講座 ⑪読書講演会 ⑫映画会			
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	おはなし会1回当たり参加者数 (幼児及び児童向け)：4人 読書講演会参加率：100% ブックスタート配布率：100%			
	実績値 (目標値との比較)	おはなし会1回当たり参加者数 (幼児及び児童向け)：4.5人 読書講演会参加率：32.7% ブックスタート配布率：100%			
	重点課題	令和5年度から新規事業として取組している調べる学習コンクールについて、より充実した事業内容を目指して、小・中・義務教育学校等との連携・協力を進めます。			
	課題への取組と成果	調べ学習コンクールの応募総数については、令和5年度が42件、令和6年度531件と実績数が飛躍的に増加しました。 市内の小・中・義務教育学校に対して、趣旨説明を含めた個別訪問を行うと共に学校からの要請に合わせて、調べ学習の特別授業も行い、事業の充実に努めました。また、コンクール表彰式の際には、保護者や学校関係者へ参加案内を行い、子どもに関わる大人の方々に調べ学習や参加した児童生徒の成果を広く周知する機会を設けました。			
次年度重点課題	誰もが読書を楽しむための読書バリアフリーに関連する取組の充実に 図り、市民の理解と支援体制の強化を進める必要があります。				
令和6年度 自己評価	<b>【評価の指標】</b>		<b>A</b>	<b>B</b>	<b>C</b>
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○		
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○		
	評価の根拠		「実績値評価」については、読書講演会の参加率は、定員300名に対し参加者が98名で、32.7%となりましたが、コロナ禍以降の行事参加者数の落ち込みを考慮し、過去の実績値とあわせて総合的に判断した結果、A評価としました。 「課題への取組と成果」については、応募総数が前年の約1.2倍に増加したこと、また取組2年目として、各小・中・義務教育学校との連携・協力が進展したことから、A評価としました。		
<b>教育委員会評価</b>		<b>今回</b>	<b>A</b>	<b>(前回)</b>	<b>(A)</b>

※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)

主要施策	4	生涯学習の実現を目指す社会教育の推進		
施策の内容	2	図書館の利用促進		
<b>事業名</b> (予算/決算)	[42] 図書ボランティア養成及び活動支援事業 (生涯学習課：文化推進係) (予算：一 千円 / 決算：一 千円)			
事業の概要	事業の目的	図書館事業の推進に必要な図書ボランティアの養成、活動支援を行うことを目的とします。		
	事業の内容	新規ボランティアの養成及び既存ボランティアの支援並びに嘉麻市図書ボランティア連絡協議会の活動支援を行っています。 ①読書ボランティアスキルアップ研修 ②読書ボランティア養成講座 ③嘉麻市図書ボランティア連絡協議会（総会、研修会開催支援等）		
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	ボランティア養成講座参加率：60% ボランティアスキルアップ研修会参加率：70% ボランティア活動登録者数：70人		
	実績値 (目標値との比較)	ボランティア養成講座参加者率：90.0% ボランティアスキルアップ講座参加者率：83.3% ボランティア活動参加者数：77人		
	重点課題	ボランティア団体と個人ボランティアの養成・支援体制等を統合していくための方針を策定する必要があります。		
	課題への取組と成果	ボランティア団体と個人ボランティアの支援体制の統合に向け、指定管理者とボランティア団体が所属する嘉麻市図書ボランティア連絡協議会と意見交換を行い、今後の方向性を検討しました。その結果、嘉麻市図書ボランティア連絡協議会については、自主運営とする方針を定め、指定管理者との交流を促進していくことで、ボランティア活動の環境を整えていくこととしました。		
次年度重点課題	読み聞かせにとどまらず、多様な場面での活動を提案し、意欲的に関われるよう工夫するなど、幅広い活動の場を創出していく必要があります。			
令和6年度 自己評価	<b>【評価の指標】</b>	A	B	C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)	○		
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○	
評価の根拠	<p>「実績値評価」としては、読書ボランティア研修などの参加者数が目標値を上回り、高い関心と参加意欲がうかがえたため、A評価としました。</p> <p>「課題への取組と成果」については、ボランティア主体の運営体制へ移行し、規則改正や行政の支援方針を整えました。支援体制の統合はできなかったものの、自主的に関わろうとする機運が生まれ、今後の継続的な支援の基盤が形づくられたため、B評価としました。</p>			
<b>教育委員会評価</b>	<b>今回</b>	<b>A</b>	(前回)	(B)

※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（基準） C：課題あり（低い）

主要施策	5	体力及び運動能力向上の推進			
施策の内容	1	生涯スポーツ支援			
事業名 (予算/決算)	[43] プロジェクトK推進事業 (スポーツ推進課：プロジェクトK・スポーツ推進係) (予算：4,915千円 / 決算：3,108千円)				
事業の概要	事業の目的	乳幼児から高齢者、障がいのある人に至るすべての市民を対象に、誰もが幸福で豊かな生活を営むことができるよう、脳科学、認知科学などに基づいた荒木式コーディネーショントレーニングを導入することにより、体力・運動能力の発達だけを目指すのではなく、脳と心にも刺激を与えることにより、新たに知性、感性、身のこなしを自らの意思で発見し、獲得することを目的とします。			
	事業の内容	各年代を対象とした荒木式コーディネーショントレーニングのプログラムを構築して、多くの団体、個人の協働と連携によって市民の間に幅広く普及させることを目標として事業の推進を図ります。			
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	乳幼児施設コーディネーショントレーニング導入率：15園 / 16園 (93.75%) 小学校コーディネーショントレーニング導入率：5校 / 5校 (100%) 義務教育学校コーディネーショントレーニング導入率：3校 / 3校 (100%) 中学校コーディネーショントレーニング導入率：2校 / 2校 (100%)			
	実績値 (目標値との比較)	乳幼児施設コーディネーショントレーニング導入率：14園 / 16園 (87.5%) 小学校コーディネーショントレーニング導入率：5校 / 5校 (100%) 義務教育学校コーディネーショントレーニング導入率：3校 / 3校 (100%) 中学校コーディネーショントレーニング導入率：2校 / 2校 (100%)			
	重点課題	荒木式コーディネーショントレーニングの普及			
	課題への取組と成果	荒木式コーディネーショントレーニングの普及のため、乳幼児施設に対しては、補助金を活用した荒木式コーディネーショントレーニングの指導員の派遣を行い、小学校・義務教育学校（前期）に対しては、市職員による荒木式コーディネーショントレーニングの出前講座を実施しました。 また、乳幼児施設の職員及び小・中・義務教育学校（前期・後期）の教職員に対しては、荒木式コーディネーショントレーニングの実技研修会を開催しました。 ・乳幼児施設コーディネーショントレーニング導入施設：14園 / 16園 (87.5%) ・小・中・義務教育学校コーディネーショントレーニング導入校：10校 / 10校 (100%) ・学童保育所出前講座：実施回数10回 実施箇所6箇所 ・荒木式コーディネーショントレーニング研修会：実施回数5回 参加者数：80人 ・荒木名誉教授出前講座 実施回数：9回 実施箇所：8箇所 ・スポーツコーディネーショントレーニング教室 実施回数：3回 参加者数：17人 ・こどもクリニック 実施回数：20回 受講者数：20人 ・ウォーキング教室 実施回数：1回 参加者数：16人			
次年度重点課題	荒木式コーディネーショントレーニングの普及				
令和6年度自己評価	【評価の指標】	A	B	C	
	実績値評価（当該年度の目標値に対する達成度・進捗度）	○			
	課題への取組と成果（当該年度の取組における成果・効果）	○			
	評価の根拠	小・中・義務教育学校に対する荒木式コーディネーショントレーニングの導入率が100%を達成しました。 荒木式コーディネーショントレーニングを活用した、各種出前講座、研修会、スポーツ教室等を開催して、重点課題である荒木式コーディネーショントレーニングの普及を図ることができたことから、実績値評価及び課題への取組と成果につきましては、共にA評価としています。			
教育委員会評価		今回	A	(前回)	(一)

※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（基準） C：課題あり（低い）

主要施策	5	体力及び運動能力向上の推進			
施策の内容	1	生涯スポーツ支援			
事業名 (予算/決算)	<b>[44] 地域コミュニティ活性化事業</b> <b>(スポーツ推進課：プロジェクトK・スポーツ推進係)</b> (予算：7,914千円 / 決算：6,350千円)				
事業の概要	事業の目的	運動教室やニュースポーツの普及活動により、市民にスポーツを実施する機会を提供します。スポーツ協会やスポーツ大会を実施する団体を支援することにより、スポーツ活動を通じた相互の親睦、運動技術の向上に努めます。また、地域コミュニティの担い手となる指導員を育成・養成することにより、地域における市民の主体的な活動を促進し、地域コミュニティの活性化を図ることを目的とします。			
	事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティ育成支援団体に対して、出前講座を実施してコミュニティづくりを推進します。</li> <li>・スポーツを実施する機会を提供するため、各種スポーツ・健康教室を開催します。</li> <li>・地域コミュニティの担い手となる指導員の育成・養成を図るため、学習会や研修会を開催します。</li> </ul>			
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティ育成支援団体 20団体</li> <li>・各種教室開催数(延べ数) 60回</li> <li>・指導者研修会実施回数 3回</li> </ul>			
	実績値(目標値との比較)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティ育成支援団体 22団体</li> <li>・各種教室開催数(延べ数) 58回</li> <li>・指導者研修会実施回数 5回</li> </ul>			
	重点課題	スポーツ教室や出前講座を実施し、市民が自主的に地域での活動を行えるよう支援します。			
	課題への取組と成果	<p>ふれあい・いきいきサロン等出前講座、学童保育所出前講座、スポーツ教室などを実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サロン出前講座：22団体、平日54回、土日6回、参加者633人</li> <li>・リズム体操教室：44回実施、参加者716人</li> <li>・リフレッシュヨガ教室：4回実施、参加者77人、託児者16人</li> <li>・悩み解消！トレーニング教室：8回実施、参加者74人、託児者0人</li> <li>・親子ふれあい教室：未実施(参加者少数のため)</li> <li>・さくらフェスタ：1回実施 参加者320人</li> <li>※パラスポーツ実施(つばさ学園利用者90人)</li> <li>・荒木式コーディネーショントレーニング研修会：5回、参加者80人</li> </ul>			
次年度重点課題	スポーツ教室や出前講座を実施し、市民が自主的に地域での活動を行えるよう支援します。				
令和6年度自己評価	<b>【評価の指標】</b>	<b>A</b>	<b>B</b>	<b>C</b>	
	実績値評価(当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)	○			
	課題への取組と成果(当該年度の取組における成果・効果)		○		
評価の根拠	<p>コミュニティ育成支援団体の拡充を図り、参加団体が目標値を上回りました。各種教室開催につきましては、新たな取り組みを実施することができず、目標値は若干下回りましたが、概ね予定どおり事業を展開することができました。</p> <p>実績値評価につきましてはA評価としますが、課題への取り組みと成果につきましては、市民の自主的な活動が実現できていないためB評価としています。</p>				
<b>教育委員会評価</b>		<b>今回</b>	<b>A</b>	(前回)	(一)

※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)

主要施策	5	体力及び運動能力向上の推進			
施策の内容	1	生涯スポーツ支援			
<b>事業名</b> (予算/決算)	<b>[45] 学校教育における体力向上推進事業</b> <b>(学校教育課：教務係)</b> (予算： - 千円 / 決算： - 千円)				
事業の概要	事業の目的	活発な心身運動を行うことを通して、運動・スポーツに親しむ身体的能力の基礎を養う。			
	事業の内容	「1校1取組」の実施を通して、全国体力・運動能力、運動習慣等調査(小5、中2)において全国平均値以上を目指す。			
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	・「1校1取組」の実施 ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査(小5、中2)において体力合計点(T得点)50点以上			
	実績値 (目標値との比較)	《1校1取組》 全校にて実施 《体力合計点(T得点)》全国平均50 小学校男子50.4 小学校女子50.4 中学校男子49.1 中学校女子49.8			
	重点課題	各学校における「1校1取組」の確実な実施			
	課題への取組と成果	各学校において、「1校1取組」が実施されています。その結果、小学校男女において体力合計点(T得点)が全国平均を上回っています。			
次年度重点課題	各学校における「1校1取組」の確実な実施				
令和6年度 自己評価	<b>【評価の指標】</b>				
	実績値評価(当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)	A	B	C	
	課題への取組と成果(当該年度の取組における成果・効果)		○		
	評価の根拠	全国体力・運動能力、運動習慣等調査(小5、中2)の質問「運動が好き」において肯定的解答率は次のようでした。 小学校男子94.6(全国93.2) 小学校女子85.7(全国86.2) 中学校男子88.5(全国90.6) 中学校女子81.2(全国76.9) このように小学校男子、中学校女子において、質問「運動が好き」に対する肯定的解答率が全国平均を上回っています。ここから、単に運動をさせることで体力向上を図るのではなく、子どもが楽しく運動に取り組む中で体力向上を図ろうとしていることが伺えます。これは運動・スポーツに親しもうとする態度を養う上で意義深いことであり、生涯スポーツにつながるものであると考えます。令和7年度も、子どもが楽しく運動に取り組む中で体力向上を図る方向で体力向上を進めていきたいと考えます。			
<b>教育委員会評価</b>		<b>今回</b>	<b>B</b>	<b>(前回)</b>	<b>(一)</b>

※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)

主要施策	5	体力及び運動能力向上の推進			
施策の内容	2	スポーツ環境の整備			
事業名 (予算/決算)	<b>[46] スポーツ施設の整備・維持管理事業</b> <b>(スポーツ推進課：施設管理運営係)</b> (予算：347,199千円 / 決算：335,486千円)				
事業の概要	事業の目的	身近に運動、スポーツを行うことができる場所や機会を提供するため、既存施設の改修や改善等を行うとともに、効率的な施設運営方法の検討を行います。 また、誰もがいつでも気軽に参加できるようなスポーツ環境づくりを進め、多様な市民ニーズに応じたスポーツ活動の場を提供します。			
	事業の内容	スポーツ施設の健全性を維持するため、「嘉麻市個別施設見直し計画」に基づき、計画的な修繕や改善を実施することで施設の長寿命化を図り、維持管理等の費用負担の平準化を図ります。 また、施設や施設用器具を最良の状態に保ち、器具を長持ちさせ、安全確保を第一と考え、安心して利用できる環境を整えることで、利用者数の向上に努めます。			
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	スポーツ施設利用者数 281,000人			
	実績値 (目標値との比較)	スポーツ施設利用者数 281,492人			
	重点課題	令和6年度は稲築武道館の屋根・外壁、照明等改修工事、碓井屋内ゲートボール場芝改修工事、嘉穂総合体育館トイレ改修工事等を実施し、利用者が安全安心に、かつ快適に利用できるよう施設の整備を図ります。 また、トレーニング機器の更新や備品等の保守点検を実施し、施設用器具を最良な状態に保てるように努めます。			
	課題への取組と成果	稲築武道館の屋根・外壁、照明等改修工事、碓井屋内ゲートボール場の人工芝改修工事及び嘉穂総合体育館のトイレ改修工事等を実施し、利用者の誰もが安全安心に、かつ快適に利用できるよう施設の環境整備を行いました。 また、トレーニング機器の更新や備品等の保守点検を実施し、施設用器具を最良な状態に保てるように努めました。			
次年度重点課題	令和7年度は嘉穂陸上競技場の4種公認競技場の公認期間満了に伴い、公認更新に必要な走路改修及びハードル等公認備品の更新を行います。 また、温水プールスイミングプラザなつきの特定天井・照明改修・ボイラー等設備の更新工事を行い、耐震化・長寿命化を図るとともに、トレーニング機器等の保守点検を実施し、備品を最良な状態に保ち利用者の安全確保に努めます。 工事期間中の施設利用者への事前周知や他の体育施設への利用調整を行っていく必要があります。				
令和6年度 自己評価	<b>【評価の指標】</b>	<b>A</b>	<b>B</b>	<b>C</b>	
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○		
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○		
評価の根拠	施設の安全対策及び長寿命化を図る改修工事のため、稲築武道館で9ヶ月、碓井屋内ゲートボール場で6ヶ月の閉館を行ったが、目標値を上回る利用者数があったため、実績値評価をB評価としています。 課題への取組と成果については、稲築武道館、碓井屋内ゲートボール場改修工事により施設の安全対策、長寿命化を図れたこと、嘉穂総合体育館のトイレ洋式化改修、またトレーニング機器等の更新により施設の環境整備が整い、より安全かつ快適に施設を利用できるようになったが、施設内樹木等の管理が行き届いていなかったため、B評価としました。				
<b>教育委員会評価</b>		<b>今回</b>	<b>B</b>	<b>(前回)</b>	<b>(B)</b>

※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（基準） C：課題あり（低い）

主要施策	6	人権尊重精神を育成する教育の推進			
施策の内容	1	学校教育における人権・同和教育の推進及び支援			
<b>事業名</b> (予算/決算)	[47] 人権・同和教育推進事業 (学校教育課：教務係) (予算： - 千円 / 決算： - 千円)				
事業の概要	事業の目的	福岡県人権教育・啓発基本指針及び嘉麻市人権教育・啓発基本指針に基づき、学校教育活動全体を通して、児童生徒が共生の心を身につけるとともに、自分らしさや能力を十分に発揮し、人権問題を主体的に解決していく力を身につけることができるよう指導していきます。			
	事業の内容	学校における人権・同和教育の指導の充実を図ります。			
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	学校での教職員等の研修 (校内研修)：3回 人権・同和教育研修会の実施 (市全域)：1回			
	実績値 (目標値との比較)	学校での教職員等の研修 (校内研修)：3回 (全10校で実施) 人権・同和教育研修会の実施 (市全域)：1回 (全10校で実施)			
	重点課題	継続して、若年教員の人権問題、同和問題に対する認識を深めるための研修会の実施をする必要があります。			
	課題への取組と成果	学校での人権・同和教育全体計画は、人権が尊重される「学習活動づくり」「人間関係づくり」「環境づくり」の3つの視点を踏まえて、前年度作成分を見直して作成されています。 学校での教職員等の研修 (校内研修) は、校内研修計画に沿って実施されています。また、人権同和担当者研修会において、若年教師向けの研修の在り方を交流し、それぞれの学校で教員の実態やニーズに応じた研修を実施することができました。 さらに、あらゆる差別の解消に向けた教職員の認識を深めるための人権・同和教育研修会は、本年度、全学校のすべての教職員を対象に集合形式で実施しました。			
次年度重点課題	基本的な内容理解を促進する研修や教職員自らが考える機会を提供する研修等、効果的な研修会の計画・実施を進める必要があります。特に、SNSに関する人権課題に対応する教材研究を進めるとともに、部落問題学習や障がい者差別に関する学習を見直します。子どもの感想や反応をもとに、心に響く教材の工夫をおこないます。				
令和6年度 自己評価	<b>【評価の指標】</b>	A B C			
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○		
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○		
評価の根拠	各学校の人権・同和教育全体計画の見直しとともに、各学校での教職員等の研修 (校内研修) は、全ての学校で3回以上実施されています。 また、人権・同和教育研修会 (全職員対象) は、8月に集合形式で実施できました。				
<b>教育委員会評価</b>		今回	B	(前回)	(B)

※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)

主要施策	6	人権尊重精神を育成する教育の推進			
施策の内容	2	社会教育における人権・同和教育の推進及び支援			
事業名 (予算/決算)	<b>[48] 人権・同和教育推進事業</b> <b>(生涯学習課：人権・同和教育係)</b> (予算：1,029千円 / 決算：606千円)				
事業の概要	事業の目的	部落問題をはじめ、あらゆる人権課題を解決し、人権尊重社会の実現に向け、嘉麻市人権教育・啓発基本方針に基づき、社会教育における人権・同和教育を一層推進するとともに、市内の各種団体等と協力しながら、行政区単位の地域研修会、団体・サークル等の研修会、企業内の人権・部落問題研修会を実施します。また、関係行政機関及び地域活動指導員（人権・同和教育指導員）との連携を行い、社会教育における人権に関する学習を推進します。			
	事業の内容	嘉麻市の人権・同和教育の推進を図るため、市内各行政区をはじめ、団体・サークル等、企業や市職員の人権・部落問題研修会を実施し、人権・部落問題に関する意識の向上を図っています。			
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	地域等での人権・部落問題研修会開催回数（24回） 事業主人権・部落問題研修会参加事業所数（67事業所） パネル展等の研修会開催回数（1回）			
	実績値 (目標値との比較)	地域等での人権・部落問題研修会開催回数（17回） 事業主人権・部落問題研修会参加事業所数（75事業所） パネル展等の研修会開催回数（2回）			
	重点課題	行政区等において、人権・部落問題研修会が開催されるよう、積極的に働きかける必要があります。各審議会等においても、人権・部落問題研修会の開催を促す必要があります。社会状況の変化に応じた個別の人権課題及び地域のニーズに合った研修内容となるよう工夫改善に努める必要があります。			
	課題への取組と成果	人権ビデオ視聴後、パワーポイントを使用し解説を行うなど学習内容の工夫を行ったことで、人権問題についての理解が深まり、日常生活においても差別への気づきに繋がっています。公民館分館事業である「ときめき学習」において人権学習を行い、子どもたちへの人権学習の機会を確保しました。また、ハローワークと連携し、外部講師による人権・部落問題研修会を11月に開催し、事業主及び事業所内の人権意識の向上を図ることができました。令和6年度は、「人権パネル」展を2回開催し、人権感覚を高める機会と場を提供しました。			
次年度重点課題	人権について考える機会と場を持っていただけるよう開催検討を促すような働きかけを行い、社会状況の変化に応じた人権教育・啓発の検討が必要です。また、部落問題をはじめ様々な人権問題の研修内容等の工夫と学習機会の充実を図る必要があります。				
令和6年度 自己評価	<b>【評価の指標】</b>	<b>A</b>	<b>B</b>	<b>C</b>	
	実績値評価（当該年度の目標値に対する達成度・進捗度）		○		
	課題への取組と成果（当該年度の取組における成果・効果）		○		
評価の根拠	地域等での人権・部落問題研修会は目標値を下回りましたが、事業主人権・部落問題研修会とパネル展は、目標値以上に実施でき、人権感覚を高める機会と場の提供を確保し、市民の人権意識の向上に繋がりました。				
<b>教育委員会評価</b>		<b>今回</b>	<b>B</b>	<b>(前回)</b>	<b>(B)</b>

※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（基準） C：課題あり（低い）

主要施策	6	人権尊重精神を育成する教育の推進			
施策の内容	2	社会教育における人権・同和教育の推進及び支援			
事業名 (予算/決算)	<b>[49] 人権・同和教育推進少年団体育成事業</b> <b>(生涯学習課：人権・同和教育係)</b> (予算：3,000千円 / 決算：3,000千円)				
事業の概要	事業の目的	人権感覚の涵養と差別をなくしていこうとする子どもの育成を図るため、解放子ども会を支援し、解放子ども会に参加する一人ひとりが、人権・部落問題について正しい認識と理解を深める活動を推進します。			
	事業の内容	部落差別をはじめ、あらゆる差別をなくすことを主たる目的として活動する団体が企画運営する解放子ども会事業に、嘉麻市解放子ども会事業補助金交付規程に基づき補助金を交付します。また、学習活動を団体、学校と協議、連携し支援しています。			
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	解放子ども会運営委員会への参加回数(2回) 解放子ども会学習内容協議への参加回数(11回) 解放子ども会への参加回数(32回)			
	実績値 (目標値との比較)	解放子ども会運営委員会への参加回数(7回) 解放子ども会学習内容協議への参加回数(12回) 解放子ども会への参加回数(35回)			
	重点課題	補助事業の目的及び内容となっているか、注視し、また事業展開が子どもたちの部落問題学習の深まりとなっているか、継続して支援を行う必要があります			
	課題への取組と成果	小・中・義務教育学校と情報共有を図り、子どもたちの部落問題学習が深まる活動となるよう助言等を継続していき、差別に立ち向かえる子どもの育成を支援することができました。			
次年度重点課題	子どもたちの部落問題学習が深まる活動となるよう、関係団体や小・中・義務教育学校とより一層緊密な連携を図り、事業展開を構築していく必要があります。				
令和6年度 自己評価	<b>【評価の指標】</b>				
	実績値評価(当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)	A	B	C	
	課題への取組と成果(当該年度の取組における成果・効果)	○	○		
評価の根拠	関係団体等、小・中・義務教育学校、行政が連携し、よりよい学習の場となるよう解放子ども会運営委員会で協議を重ねました。子どもたちの部落問題学習が深まる活動となるよう学習計画立案の段階から連携をとり、さらに、学習の場においては、指導者の補助的役割や子ども達の自主性・主体性が育めるように導く等、活動に対して助言等を行い、効果・効率性の向上を図ることができました。				
<b>教育委員会評価</b>		今回	B	(前回)	(B)

※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)

主要施策	6	人権尊重精神を育成する教育の推進			
施策の内容	2	社会教育における人権・同和教育の推進及び支援			
事業名 (予算/決算)	<b>[50] 人権・同和教育推進団体育成事業</b> <b>(生涯学習課：人権・同和教育係)</b> (予算：1,777千円 / 決算：1,453千円)				
事業の概要	事業の目的	解放学級及び日常生活で文字の読み書きに不自由している人々を対象にした識字学級を開催し、学級生一人ひとりが、人権・部落問題について更なる正しい認識と理解を深める学習や学級活動を推進します。			
	事業の内容	解放学級を開催し、人権・部落問題についての学習を行うとともに、識字学級を開催することにより文字の読み書き学習を支援しています。			
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	解放学級数【7学級】 識字学級【1学級】 合同学習会の開催回数【1回】			
	実績値 (目標値との比較)	解放学級数【5学級】 識字学級【1学級】 合同学習会の開催回数【1回】			
	重点課題	解放学級では、学級生の自主的・主体的な学習活動を引続き支援し、学習内容の工夫・充実を図っていきます。学習の機会を持つとする意識になるよう働きかけ、学びの継続に繋がるよう支援していきます。また、地域の協力を得ながら、学級生の拡大を図る必要があります。識字学級では、学びを継続することで、生きることへの自信や喜びに繋がるよう支援していきます。			
	課題への取組と成果	解放学級では、地域住民の自主的・主体的な学習活動を学校と協力してサポートすることにより、学級生一人ひとりが、人権問題について更なる正しい認識と理解を深め、継続して学びの場となっています。識字学級では、学びを継続することで、生きることへの自信や喜びに繋がるよう支援を行いました。また、合同フィールドワーク、合同学習会を行い、共に学ぶことで、学級生同士の交流を深めることができました。			
次年度重点課題	人権学習が寸断されることなく、学習の機会を持つとする意識になれるよう働きかけ、学習活動を引続き支援していく必要があります。				
令和6年度 自己評価	<b>【評価の指標】</b>	<b>A</b>	<b>B</b>	<b>C</b>	
	実績値評価（当該年度の目標値に対する達成度・進捗度）		○		
	課題への取組と成果（当該年度の取組における成果・効果）		○		
評価の根拠	解放学級では、自主的・主体的な学習活動が継続できました。そのことで、学級生一人ひとりが人権部落問題についてさらなる正しい認識と理解が深まる活動になりました。 また、識字学級においては、様々な教材を活用することで、学級生それぞれが自主的に学習を進めることができました。 さらに、合同フィールドワークと合同学習会を行い、学級生同士の交流を深めることができました。				
<b>教育委員会評価</b>		<b>今回</b>	<b>B</b>	<b>(前回)</b>	<b>(B)</b>

※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（基準） C：課題あり（低い）

主要施策	7	市民文化の創造			
施策の内容	1	美術に関する創造的活動の推進			
<b>事業名</b> (予算/決算)	<b>[5 1] 文化芸術活動推進事業</b> <b>(生涯学習課：文化推進係)</b> (予算： — 千円 / 決算： — 千円)				
事業の概要	事業の目的	市民の自主的な文化芸術活動や学校教育を支援し、感性豊かな人材の育成や郷土への誇りを育むことで、地域の文化芸術の活性化と教育・文化のまちづくりを推進します。			
	事業の内容	地域の個人・団体の文化芸術活動や学校・公民館との連携による鑑賞・創作活動を支援し、あらゆる世代に向けた学習プログラムの充実や情報発信、郷土作家の作品を活用した教育支援を通じて、市民の文化芸術振興に取り組みます。			
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	美術館を活用した学校数(延べ回数)：8校(延べ16回) 展示室5利用団体数：10組 市民アトリエの延べ利用回数：85回			
	実績値 (目標値との比較)	美術館を活用した学校数(延べ回数)：2校(延べ3回) 展示室5利用団体数：12組 市民アトリエの延べ利用回数：45回			
	重点課題	学校との情報共有や学習支援を強化し、庁内の産業振興課、デジタル戦略課、市内の観光まちづくり協会、道の駅うすいなどと連携・協力を進めます。これにより、美術館の利用促進と利便性向上を目指します。			
	課題への取組と成果	指定管理者と連携し、地域団体による展示室5の利用促進に取り組んだ結果、利用団体数は目標を上回りました。一方で、学校利用や市民アトリエの利用回数は目標に届かず、学習支援や創作活動への参加が限定的でした。これは学校との連携不足や、アトリエ利用に関する情報発信の弱さが要因と考えられます。また、所蔵作品を活用した教育支援は一部実施されたものの、継続的な取組には至っていません。			
	次年度重点課題	学校との連携を強化し、カリキュラムに即した出前授業を計画するなどし、学校の美術館の利用数を増やすことが必要です。			
令和6年度 自己評価	<b>【評価の指標】</b>				
	実績値評価(当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)	A	B	C	
	課題への取組と成果(当該年度の取組における成果・効果)		○		
	評価の根拠	展示室5の利用団体数が目標を上回るなど、地域団体等が行う文化芸術活動の支援については一定の成果が見られました。また、所蔵作品を活用した教育支援にも着手し、事業目的の一部は達成できました。一方で、美術館を活用した学校数や市民アトリエの利用回数は目標値に届かず、学習支援や創作活動の充実には課題が残りました。 総合的に見て、事業の方向性や取組内容は適切であり、一部の目標未達はあるものの、一定の成果が上がったと判断されることから本事業の評価はB評価としました。			
<b>教育委員会評価</b>		<b>今回</b>	<b>B</b>	(前回)	(B)

※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)

主要施策	7	市民文化の創造			
施策の内容	1	美術に関する創造的活動の推進			
<b>事業名</b> (予算/決算)	<b>[52] 美術館運営管理事業 (生涯学習課：文化推進係)</b> (予算： — 千円 / 決算： — 千円)				
事業の概要	事業の目的	美術館や碓井琴平公園を快適かつ安全に利用できるよう適切に維持管理を行うとともに、収蔵作品の保存・活用や交流人口の増加に向けた周知にも努めます。			
	事業の内容	美術館や碓井琴平公園の適切な維持管理と環境美化を行い、快適な鑑賞環境と作品保存を両立させるとともに、作品の調査・修復・記録の充実、情報発信や来場者の声を活かしたサービス向上に努めます。			
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	展示室入館者数：11,350人 入館者総数(市民アトリエ利用者含む)：12,350人 市民アトリエ、展示室5利用回数：100回			
	実績値 (目標値との比較)	展示室入館者数：6,976人 入館者総数(市民アトリエ利用者含む)：8,350人 市民アトリエ、展示室5利用回数：89回			
	重点課題	市内外を対象にした美術館に対するアンケート調査を実施して、結果の分析をし課題の改善策を検討します。また指定管理者に対し、運営状況のモニタリングを実施し、指導改善を図ります。			
	課題への取組と成果	アンケート結果や入館者データを分析し、アクションプランの進捗管理と共に指定管理者と情報を共有することで、今後の運営改善に活用しました。施設の維持管理は概ね良好で、美術館及び公園の快適な利用環境を維持できました。アトリエや展示室5の利用は目標に近づき一定の成果が見られましたが、展示室入館者数は目標を大きく下回り、広報や集客面での課題が明らかとなりました。			
次年度重点課題	来館者数の回復に向け、学校・地域団体や他部署と連携し、事業内容や情報発信を強化しながら交流人口の拡大を図ります。				
令和6年度 自己評価	<b>【評価の指標】</b>		<b>A</b>	<b>B</b>	<b>C</b>
	実績値評価(当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)			○	
	課題への取組と成果(当該年度の取組における成果・効果)			○	
評価の根拠	<p>施設の維持管理や環境美化については、指定管理者により計画的かつ継続的に取り組まれており、美術館及び碓井琴平公園は快適で安全な利用環境が確保されました。また、市民アトリエや展示室5の利用回数は目標に近づき、地域における文化活動の場としての定着が見られました。一方で、展示室入館者数や総入館者数は目標を下回り、広報や集客に課題が残る結果となりました。</p> <p>総合的に見て、施設管理運営の基本的な機能は果たされ、一定の成果が認められることから、本事業の評価はB評価としました。</p>				
<b>教育委員会評価</b>		<b>今回</b>	<b>B</b>	(前回)	(B)

※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)

主要施策	7	市民文化の創造			
施策の内容	1	美術に関する創造的活動の推進			
<b>事業名</b> (予算/決算)	<b>[53] 企画展事業 (生涯学習課：文化推進係)</b> (予算： — 千円 / 決算： — 千円)				
事業の概要	事業の目的	優れた文化芸術の鑑賞や織田廣喜の作品展示・発信を通じて、市民の関心を高め心を癒すとともに、人材育成や観光振興、持続可能なまちづくりに貢献します。			
	事業の内容	特別企画展やコレクション展の開催に加え、図書館等との連携による展示内容の充実や関連イベントの実施、広報の強化に取り組み、事業の成果と課題を次年度に活かして効果的な運営を継続します。			
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	特別企画展入館者数：5,300人 企画展入館者数 (コレクション展等)：260人 メディア掲載回数：6回			
	実績値 (目標値との比較)	特別企画展入館者数：2,344人 企画展入館者数 (コレクション展等)：1,415人 メディア掲載回数：49回			
	重点課題	嘉麻市観光まちづくり協会、道の駅うすい等他団体等との連携を強化し、多角的な企画と共に広報を行い、市外からの交流人口を増やす取組を行います。			
	課題への取組と成果	嘉麻市観光まちづくり協会主催のアウトドアイベントを美術館敷地内で開催し、地域連携による交流人口の増加に一定の成果が見られました。メディア掲載回数は目標を大きく上回り、フリーペーパー事業者等との連携による広報強化の効果が現れました。また、図書館等と連携した関連イベントの実施により、展示内容の充実と来館者満足度の向上にも努めました。一方で、特別企画展の入館者数は目標に届かず、市内外からの集客促進に引き続き課題が残る結果となりました。			
次年度重点課題	特別企画展の集客力向上を図るため、魅力ある企画の充実と、市内外のターゲット層に応じた情報発信を強化し、来館促進と満足度向上を目指します。				
令和6年度 自己評価	<b>【評価の指標】</b>	<b>A</b>	<b>B</b>	<b>C</b>	
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○		
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○		
評価の根拠	特別企画展の入館者数は目標に届かなかったものの、コレクション展等の企画展は大きく目標を上回り、企画展全体として一定の集客効果が見られました。また、メディア掲載回数は大幅に増加し、広報活動の強化が着実に成果を上げたことが評価できます。図書館との連携や関連イベントの実施により、展示内容の充実にも取り組み、事業の基本的な方向性は妥当と判断されます。こうした点を踏まえ、本事業の評価はB評価としました。				
教育委員会評価		今回	B	(前回)	(A)

※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（基準） C：課題あり（低い）

主要施策	7	市民文化の創造			
施策の内容	1	美術に関する創造的活動の推進			
<b>事業名</b> (予算/決算)	<b>[54] 美術教育普及事業 (生涯学習課：文化推進係)</b> (予算： — 千円 / 決算： — 千円)				
事業の概要	事業の目的	市民に文化芸術への関心を深める学習機会を提供し、美術教育を補完・拡充して子どもの表現力や思考力を育みます。			
	事業の内容	幅広い世代が学びや体験を得られる教育プログラムを、アーティストや大学等と連携して実施し、デジタルチラシなどで情報提供を行うとともに、成果と課題を次年度に活かして効果的な取組を継続します。			
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	主催講座数(種別数)：4講座 アウトリーチ実施回数：5回 教育プログラムの満足度(アンケート結果)：83%			
	実績値 (目標値との比較)	主催講座数(種別数)：13講座 アウトリーチ実施回数：1回 教育プログラムの満足度(アンケート結果)：90%			
	重点課題	ボランティアの登録募集については今後も市内外へ周知し、登録者のための説明会を実施することで登録者数が増えることを目指します。 展示講習などボランティアのスキル向上につながる研修を設け、ボランティアの活動の選択肢を増やすことで人材育成を目指します。			
	課題への取組と成果	登録ボランティアは6名となり、展示講習や企画展準備、ワークショップ支援など多様な活動の機会を設けた結果、参加人数も昨年度を上回りました。主催講座は目標を大きく超える13講座を実施し、幅広い世代に対して学びの場を提供できました。プログラム満足度も90%と高く、美術教育の補完・拡充に一定の成果が確認されました。			
次年度重点課題	アウトリーチの機会を拡充し、学校や地域団体との連携を強化することで、美術教育の裾野を広げ、持続的な人材育成につなげます。				
令和6年度 自己評価	<b>【評価の指標】</b>				
	実績値評価(当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)	A	B	C	
	課題への取組と成果(当該年度の取組における成果・効果)	○	○		
評価の根拠	<p>主催講座数は目標を大きく上回り、内容の多様化と参加機会の拡充により、子どもから高齢者まで幅広い世代への美術教育普及に大きな成果が見られました。加えて、教育プログラムに対する満足度も90%と高く、事業の質の面でも好評価が得られました。一方で、アウトリーチの実施回数は目標に届かず、課題を残しました。ボランティア育成についても、引き続き人材確保と研修機会の充実が求められます。</p> <p>以上を総合的に判断し、本事業は多くの目標を上回る成果を上げたことから、本事業の評価はA評価としました。</p>				
<b>教育委員会評価</b>		今回	A	(前回)	(B)

※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)

主要施策	7	市民文化の創造			
施策の内容	2	文化財の保護・継承・活用			
<b>事業名</b> (予算/決算)	[55] 郷土の歴史文化を守る事業 (生涯学習課:文化推進係) (予算:27,105千円 / 決算:25,471千円)				
事業の概要	事業の目的	市内に残る多様な文化財を郷土の「たから」として後世に伝え、適切な活用が図れるように、文化財の保護管理に努めることを目的とします。			
	事業の内容	文化財保護審議会の運営、指定文化財等の維持管理、埋蔵文化財の事前審査、その他さまざまな文化財の調査・研究などを行います。			
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	文化財保護審議会の開催:2回 保存・活用のための調査研究件数:2件 文化財まちづくり推進団体数:1団体			
	実績値 (目標値との比較)	文化財保護審議会の開催:2回 保存・活用のための調査研究件数:1件 文化財まちづくり推進団体数:1団体			
	重点課題	市ホームページにおける指定文化財および埋蔵文化財ページのリニューアルを行う必要があります。			
	課題への取組と成果	重点課題とした市ホームページのリニューアルについては、事前準備までは行うことができましたが、実現までには至りませんでした。 害獣による被害で近年の課題となっていた福岡県指定史跡「沖出古墳」の葺石補修工事及び緊急の対策が必要とされた嘉麻市指定有形文化財「桑野の梯橋」の応急保全措置については、当初の計画通り実施することができました。また、「桑野の梯橋」の応急保全措置にあたっては、クラウドファンディングを実施し、全国の方々から多くの支援を得ることができました。			
次年度重点課題	市の組織体制が縮小する中で、地域住民をはじめ、多様な関係団体との連携を構築し、文化財及び地域資料の保存に努める必要があります。				
令和6年度 自己評価	<b>【評価の指標】</b>		<b>A</b>	<b>B</b>	<b>C</b>
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)			○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)			○	
	評価の根拠	<p>「実績値評価」については、上記以外の目標値として挙げていた民俗芸能保存団体へのボランティア派遣事業(福岡県主催事業)へのサポートは十分な対応ができませんでした。他の目標値については、概ね達成することができましたので、B評価としました。</p> <p>「課題への取組と成果」については、重点課題は当初の目標まで至らなかったものの、各指定文化財の補修・保全工事を含めた維持管理は当初の計画通りに実施できたこと、また、クラウドファンディングを通じて、市民と行政が連携して文化財の保存に取り組めたことは大きな成果となりましたので、全体としてB評価としました。</p>			
<b>教育委員会評価</b>		<b>今回</b>	<b>B</b>	<b>(前回)</b>	<b>(B)</b>

※評価の指標 A:期待以上(高い) B:概ね期待どおり(基準) C:課題あり(低い)

主要施策	7	市民文化の創造			
施策の内容	2	文化財の保護・継承・活用			
<b>事業名</b> (予算/決算)	<b>[56] 郷土の歴史文化を伝える事業</b> <b>(生涯学習課：文化推進係)</b> (予算：3,436千円 / 決算：3,233千円)				
事業の概要	事業の目的	市内に残る多様な文化財の活用を図り、郷土への誇りと愛着を培うと共に、郷土の歴史・文化のPRに努めることを目的とします。			
	事業の内容	指定文化財の公開・活用、講座、企画展等の教育普及事業を行います。			
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	沖出古墳特別公開事業参加者数：300人 学習支援・視察研修等への対応件数：18件 学習教材作成件数：2件			
	実績値 (目標値との比較)	沖出古墳特別公開事業参加者数：374人 学習支援・視察研修等への対応件数：40件 学習教材作成件数：2件			
	重点課題	令和5年3月に県指定史跡となった大隈城跡（益富城跡）の周知及び活用を図る必要があります。			
	課題への取組と成果	市内の史跡の中で問い合わせが多い大隈城跡（益富城跡）のリーフレットを新規に作成しました。作成にあたっては、市文化財保護審議会の意見も踏まえて、周辺の関連文化財等を紹介するなど観光を目的とした周遊にも配慮した内容としました。また、児童・生徒向けの学習教材としてYouTube動画「益富城の謎を解き明かせ」を制作しました。			
次年度重点課題	市の組織体制が縮小する中で、地域の公民館活動をはじめ、多様な関係団体との連携を構築し、文化財の活用にも努める必要があります。				
令和6年度 自己評価	<b>【評価の指標】</b>		<b>A</b>	<b>B</b>	<b>C</b>
	実績値評価（当該年度の目標値に対する達成度・進捗度）		○		
	課題への取組と成果（当該年度の取組における成果・効果）			○	
	評価の根拠	「実績値評価」については、沖出古墳特別公開事業や学習支援事業が目標値を大きく上回り過去最高となったほか、学習教材として文化財ボランティアの協力のもとYouTube動画を2本制作しましたので、A評価としました。 「課題への取組と成果」については、大隈城跡（益富城跡）の周知・活用を目的としたリーフレット作成と動画の制作を当初の計画通り実施できましたので、B評価としました。			
<b>教育委員会評価</b>		<b>今回</b>	<b>A</b>	<b>(前回)</b>	<b>(A)</b>

※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（基準） C：課題あり（低い）

主要施策	7	市民文化の創造			
施策の内容	2	文化財の保護・継承・活用			
<b>事業名</b> (予算/決算)	<b>[57] 郷土の歴史文化拠点施設活用事業</b> <b>(生涯学習課：文化推進係)</b> (予算：8,089千円 / 決算：6,958千円)				
事業の概要	事業の目的	効率的な施設運営を図りながら、学校教育及び社会教育に資すると共に郷土の歴史・文化のPRに貢献することを目的とします。			
	事業の内容	歴史民俗資料展示・保管施設（4館1室）の維持管理に努めると共に収蔵資料の台帳整備を行い、資料の活用を進めます。			
令和6年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	常設展示替え・ミニ企画展実施件数：3件 碓井郷土館・碓井平和祈念館研修受入数：12件 碓井郷土館・碓井平和祈念館の利用学校数：8校			
	実績値 (目標値との比較)	常設展示替え・ミニ企画展実施件数：3件 碓井郷土館・碓井平和祈念館研修受入数：25件 碓井郷土館・碓井平和祈念館の利用学校数：3校			
	重点課題	これまで調査整理を行ってきた収蔵資料の中で、古文書類の活用を図る必要があります。			
	課題への取組と成果	教育委員会で収蔵している古文書類の活用を図るため、令和6年度から新たに古文書講座を開設しました。多くの方に古文書の魅力や地域の歴史を知ってもらうこと、また学びの成果を古文書整理などのボランティア育成に繋げていくことを目的に募集を行ったところ、市内外から多くの応募があったため、急遽、午前と午後の2回に分けて講座を実施することになりました。			
次年度重点課題	本年は戦後80年の節目の年にあたり、碓井平和祈念館のさらなる活用と利用学校数の増加を図る必要があります。				
令和6年度 自己評価	<b>【評価の指標】</b>		<b>A</b>	<b>B</b>	<b>C</b>
	実績値評価（当該年度の目標値に対する達成度・進捗度）			○	
	課題への取組と成果（当該年度の取組における成果・効果）		○		
	評価の根拠	「実績値評価」については、碓井郷土館・碓井平和祈念館研修受入数が大幅に増加した反面、市内の利用学校数は3校にとどまり目標値に到達しませんでしたので、全体としてB評価としました。研修申込数の大幅な増加は、碓井平和祈念館の人権資料展示のリニューアルと広報が上手くいったことで、利用団体が増加したものと分析しています。 「課題への取組と成果」については、古文書受講者数が予想を大きく上回り、講座回数を大幅に増やして対応できたことで、将来のボランティア育成にも繋げていける期待が膨らんだため、A評価としました。			
<b>教育委員会評価</b>		<b>今回</b>	<b>B</b>	<b>(前回)</b>	<b>(B)</b>

※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（基準） C：課題あり（低い）

福岡県立大学 看護学部  
准教授 原田 直樹

■主要施策1 少人数指導等による学力向上

主要施策1の事業について、教員配置率は100%を達成し、学力検証事業における学力調査等の結果はほぼ目標値を達成している。しかし土日の家庭学習ゼロの児童生徒に関しては全国平均値以下を達成した学校が3割に留まり、一部で課題が残ったと判断する。

「少人数指導推進事業（事業1）」においては、全国的に教員不足が深刻な状況下にあつて、本市の教員配置率は100%を達成しており、人員確保に向けた努力を高く評価したい。その中で、採用が任期付き講師や臨時免許発行による雇用に依らざるを得ない状況は仕方のないことであるが、教師の質の担保に向けた取り組みを毎年継続して実施できるかが一つの課題と言えよう。

「学力検証事業（事業2）」においては、単元テストを導入し短いスパンでの学力向上策の評価・改善を実施する等、新たな取り組みを開始している。しかし、中学校・義務教育学校（後期）ではそもそも単元テストが存在せず、その実施が教員の負担となっていることが危惧された。また、学力CD層の児童生徒を把握し、学習状況に応じた支援が実施されているとのことであるが、そこは学校ごとでの取り組みに留まっている。市としての全体的な支援の指針を作成した後、それを基に学校ごとで支援の計画を策定、実施し、その上で学力向上の評価をするサイクルが必要であると考ええる。

「嘉麻市学力向上サポート事業（事業3）」においては、ボランティア等を活用した土曜未来塾を開講する等、学校外での学習活動の促進に取り組んでいる。その土曜未来塾への児童生徒の参加率は12.5%に留まり、かつ、学校によってその参加率に大きな差が生じていることは課題である。また、土曜未来塾においては、生活支援課との連携の下、ケースワーカーが家庭に対して参加奨励を実施している。生活困窮世帯の場合、多くは経済的な理由によって世帯の子どもを学習塾等に通わせることができないという現状があることは想像に難しくなく、それゆえの生活支援課との連携であると考えるが、そもそもの事業の目的が学力向上にあるのであれば、生活困窮世帯だけではなく、学力検証事業で把握できた学力CD層の児童生徒にも参加奨励を行い、その結果について評価する必要があると考ええる。

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

主要施策2の多くの事業について、実績値がほぼ目標値どおりの達成を示しており、順調な事業実施状況にあると判断する。

「特別支援教育推進事業（事業4）」においては、対象となる特別な支援を必要とする児童生徒の割合が増加する中で、特別支援教育補助教員及び特別支援教育支援員の配置率は100%を達成している。さらに、教員の研修、他機関や専門職者との連携等、特別支

援学級等においてきめ細やかな教育及び指導がなされていることを高く評価したい。また、不登校児童生徒の中には発達障害等を有する児童生徒も少なくないが、支援員の関りによって不登校が改善した事例が点検・評価ヒアリングにおいて報告された。特別支援教育の体制が柔軟に機能している様子が伺え、この点も評価したい。今後とも特別な支援を必要とする児童生徒一人ひとりのニーズに応じた適切な指導及び支援が、継続的に実施されることを期待する。

「奨学金事業（事業 19）」では、既存の事業内容に加え、新たに入学支度金貸与制度の取り組みが開始されることが決定した。本事業においては、これまでも周知方法の拡充に取り組む等、奨学金事業の利用促進に向けた努力が見られ、この点を高く評価する。一方で、貸付者数は年々減少している。国や県、日本学生支援機構による就学支援制度や奨学金制度等の充実が図られていることから、市独自の奨学金事業の貸付者が減少していることは理解できる。しかし、本市の就学援助率を見てみると、その値は県内でもかなり高いところに位置しており、本市の就学世帯には経済的困窮世帯が多いことが推測できる。経済的理由によって児童生徒の将来の可能性が狭められたり閉ざされたりすることのないよう、本市の奨学金事業は経済的困窮世帯の児童生徒の進学セーフティネットとして位置付くよう継続していただきたい。

なお、経済的困窮世帯の児童生徒への支援については、より積極的かつ包括的に実施されることを期待しているところである。そのために、奨学金貸付者と就学援助認定者との関連、さらには就学援助認定者と、学力、不登校、生涯学習等、様々な教育関連指標との関連を確認し、必要な事業展開を考えていく必要がある。まずは関係データの解析に取り組んではいかがかと考える。

### ■主要施策 3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

主要施策 3 の各事業について、一部で実績値が目標値に届かない実施状況も見られるが、概ね順調な事業実施状況にあると判断する。

「学校保健事業（事業 22）」においては、健康診断は学校保健安全法上、実施義務がある事項となっている。よって「実施」することが当然であって、事業の目標値と実績値を「実施」としてしまっただけではその実態が見えにくくなってしまふ。前年度までのように目標値を 100%とし、実績値も数値とすることが望ましいと考える。ぜひ改変を検討していただきたい。

なお、健康診断の未受診率は、ここ数年は 4～5%程度で推移しているようである。未受診者は主に不登校や特別な支援を必要とする児童生徒であり、これに対して医療機関の受診をするよう指導がなされているとのことであった。例年、同様の状況に対して同様の指導では、数値が改善することはない。不登校や特別な支援を必要とする児童生徒が安心できる場所で健康診断が受診できるように実施体制の工夫が求められる。

「不登校対策支援事業（事業 27）」について、不登校児童生徒発生率が全国的に激増している中で、本市の不登校児童生徒発生率が全国平均値を下回り（全国：3.72%、本市：3.34%）、経年でも減少の傾向にある点を高く評価したい。とりわけ、前年度の 3.97%か

ら大きく減少することができた背景について、不登校支援会議とともに各学校において魅力ある学校づくりに向けた取り組みや校内教育支援センターの設置、特別支援教育支援員による学習支援等、様々な取り組みがなされていることが点検・評価ヒアリングにおいて報告され、組織的な不登校対策が実施されていることが伺えた。

なお、本市の不登校対策においては新規不登校の発生が課題の一つと認識されている。新規不登校を生み出さないためには、新規不登校になりそうな児童生徒をできるだけ早く予測し、そこにターゲットを絞った取り組みを実施することが求められる。そして効果があった取り組みを学校全体に波及させることで新規不登校を抑制することができ、不登校発生率はさらに減少すると予想される。

#### ■主要施策4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

主要施策4の各事業について、実績値の多くは目標値を達成できているが、一部で目標値に届かない実施状況が見られた。

「社会教育施設整備事業（事業35）」においては、施設利用者数の目標値と実績値に大きな解離が見られた。令和6年度をもって社会教育施設の1つを用途廃止にすることに加え、本市の人口減少と高齢化の進展といった社会的背景を鑑みると、次年度以降については目標値設定の見直しが検討されるべきと考える。

「図書館施設管理運営事業（事業40）」においても年間施設利用者数と年間貸出冊数の実績値がいずれも目標値に達することができなかった。その要因として、担当課では、前述の社会的背景とともにデジタルコンテンツの普及による活字離れがあると推測されており、図書へのアクセス向上を目指した取り組みが求められている。その一環として本市では、すでに電子図書館のトライアル版による調査研究が実施され、その評価と課題が明らかにされている。引き続き、電子図書館導入に向けた前向きな検討がなされるべきと考える。

#### ■主要施策5 体力及び運動能力向上の推進

主要施策5の各事業について、実績値が目標値を達成したもの、またはほぼ目標値に近い結果を残しており、概ね順調な事業実施状況にあると判断する。

「学校教育における体力向上推進事業（事業45）」について、「1校1取組」の実施により、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点が小・中学校の男女でほぼ全国平均並みになったことは評価できる。「1校1取組」は、学校ごとにコーディネーショントレーニングを取り入れているところや朝活体育を実施しているところなど様々であるが、学校によって取り組みの状況に差があることが報告された。本市で数年前から導入と普及が図られているコーディネーショントレーニング等、体力向上推進事業における全市的な取り組みを模索してはどうだろうか。

現在では、児童生徒の体力は、学力や世帯の経済状態と関連することが指摘されている。体力合計点と学力テストの結果や就学援助認定の有無、部活動やスポーツクラブへの参加等との関連についてデータの解析を進めることで、児童生徒の体力向上を目指し

た効果的な取り組みを模索できると考える。

#### ■主要施策6 人権尊重精神を育成する教育の推進

主要施策6の各事業について、実績値がほぼ目標値に届いており、概ね順調な事業実施状況にあると判断する。

「人権・同和教育推進事業（事業47）」においては、学校での教職員等の研修（校内研修）と全市での人権・同和教育研修会が実施されている。教職員があらゆる差別の解消に向けた認識を深めることは、市民として個人の人権意識を醸成するという観点において重要なことである。同時に、教員は児童生徒への人権教育実施の責務を有している。人権教育は、人権に関する知識とともに人権感覚の涵養を基盤として、意識、態度、実践的な行動力など様々な資質や能力を育成し、発展させることを目指すものである。すなわち、児童生徒に対して人権に関する知識を身に付けさせるだけではなく、人権を尊重できる行動のレベルまで深化させることが求められる。よって学習指導に使用する教材研究や教育方法の検討はもちろん重要であるが、それとともに学校等において児童生徒に人権上の問題が生じた場合にどのように対応をするのか、どのような指導をすればよいのか、教職員には場面に応じた指導に関する研修も求められていると考える。

#### ■主要施策7 市民文化の創造

主要施策7の各事業について、実績値の多くは目標値を達成できているが、一部で目標値に届かない実施状況が見られた。

「美術館運営管理事業（事業52）」における展示室入館者数と入館者総数、「企画展事業（事業53）」における特別企画展入館者数では、いずれも実績値が目標値に達することができなかった。しかし、周知や集客力向上に向けた取り組みへの努力はなされている。

本市は、図書館や美術館、スポーツ施設等が充実しており、それは市の文化指標の高さを示している。しかし市の規模を考えると、本市に美術館があることは実は大変希少なことであると言え、本市は貴重な文化拠点を有しているのである。美術館の入館者が伸び悩んでいるという状況は、すなわちその貴重な文化価値が市民に浸透していないとも言え、その改善に向けた方策には周知の工夫だけではなく教育が必要となる。とりわけ次代を担う子どもの文化価値を育む教育活動が重要となり、その観点から、「文化芸術活動推進事業（事業51）」での学校との連携が鍵になる。単に学校の教育活動の一環として児童生徒が美術館を訪れることを目標とするのではなく、児童生徒があらゆる機会に美術館を文化・教育拠点として活用できるよう、柔軟な運営を試みていただきたい。例えば、不登校児童生徒の居場所の一つとしての活用や、児童生徒が休憩したり暑さや寒さをしのぐ場所として活用したりすることもよいのではないだろうか。児童生徒のその経験が個人の中に価値を生み出し、いつしか文化や郷土を愛する大人へと成長することにつながるかもしれない。ぜひ「市民文化の創造」の施策は長い時間を要する取り組みとして、継続をしていただきたい。

「郷土の歴史文化を伝える事業（事業56）」においては、YouTubeのコンテンツ（動画、

ショート動画)の制作や、クラウドファンディングの実施をYouTubeでの周知をする等、この努力を高く評価する。若い世代が楽しみながら郷土の歴史文化を知ることができる取り組みを今後も継続していただきたい。今後の事業のさらなる充実化に期待したい。

### 【全体所見】

令和6年度の嘉麻市の教育施策に関する事業は、第6次嘉麻市教育振興基本計画(第6次教育アクションプラン)に基づいて、総じて概ね順調な実施状況にあると判断する。

今回の点検・評価では、1施策で課題があると判断し、2施策で順調か否かの判断を避けた。課題があると判断したものは、土曜未来塾の参加率に学校ごとの差が大きい点である。今回のヒアリングでは、その他にもいくつかの事業で学校ごとに実績に差があることを耳にした。本市の教育体制は児童生徒の個別性に配慮したきめ細やかな教育と支援が実施されていることが特徴の一つと言える。社会の変化に伴い子どもや家庭が有する諸課題が多様化、複雑化し、その一方で教員の確保が困難を極めている状況下において、本市の教育体制を堅持することは大変な苦労があると認識しているし、関係各位の努力には敬意を表する。しかしながら、事業実施の場面において各学校を実施主体として任せきりにしているところが多くなってはいないだろうか。学校には校区の地域性があり、学校内にはそれぞれ異なる学校文化が存在することから、同一の事業であっても学校ごとに差が生じることは否めない。しかし、教育施策の展開において事業実施主体に委ねる部分が大きくなると、取り組みの内容そのものにばらつきが生じ、引いては成果に差が生じてしまうことになる。教育施策におけるこのようなばらつきや差は、すなわち教育の量や質に格差が生じてしまうということにつながる。これを防ぐためには、まずは教育委員会は事業実施に際して、具体性のある指針の提示が必要になると考える。

他方、順調か否かの判断を避けたものは、指標設定に関する課題が見えた事業である。令和6年度は第6次嘉麻市教育振興基本計画の初年度であり、これに伴っていくつかの事業で評価指標の見直しが図られている。指標の設定に際しては、多くの事業では数値で設定しているが、一部で指標を「実施」としているところが散見された。例えば健康診断は、法令上の実施義務がある事項であるので「実施」することが当然である。しかし、「実施」を目標値と実績値としてしまうと、実施の状況、つまり内容を知ることができなくなってしまう。事業の点検・評価においては、その事業を実施したか、しなかったかではなく、どのように実施したかが重要となる。それを客観的に把握できるのが数値である。すなわち事業の点検・評価においては、まずは数値を基本とした指標の設定、そしてその上で妥当性のある事業評価手法が求められ、これを行うことで初めて目標達成に資する効果的かつ効率的な事業内容及び実施体制等の見直しというサイクルを形成することが可能となる。指標設定のあり方について、今一度検討をしていただきたい。

今回の点検・評価ヒアリングにおいて、各担当課より事業成果について報告をしていたが、とりわけ注目すべきは本市の不登校状況の改善である。全国で不登校児童生徒数が急増し、ここ数年は毎年過去最多を更新し続けている状況にあって、驚くべき成果と言えよう。

今回、この成果の評価に用いた指標は不登校発生率である。つまり、病気や経済的な理由を除く欠席が年間 30 日以上となった児童生徒数による評価である。一方で、現在の不登校支援のあり方は、学校に登校するという結果のみを目標とせず、将来の社会的自立を目指した支援の展開が求められている。つまり、現在の不登校支援の施策においては、欠席日数に基づく不登校児童生徒数の増減による評価だけでは不十分であり、そこに加えて将来の社会的自立につながる「学び」の評価が求められている。不登校児童生徒に対してどれだけの学びの保障ができたかという観点からの評価である。この点についてもぜひ検討を続けていただき、不登校問題の本質的な改善に向けた取り組みに繋げていただきたいと考える。

今後も教育委員会主導の下、誰ひとり取りこぼしのない学校教育・生涯学習のための施策が着実に推進されることを期待する。

福岡県立大学 人間社会学部  
特任教授 八田 信人

■主要施策1 少人数指導等による学力向上

少人数指導体制の整備や学力向上策の評価・改善、土曜未来塾の実施などの取組には、学力向上を目指す本気度を感じる。しかし、学力の伸びは一部にとどまっており課題は大きい。

「少人数指導推進事業（事業1）」は、全国的な教員不足の状況下で、30人以下の学級編制や少人数指導特別教員の15名配置を通して、全小・中学校での少人数指導を実現した点は高く評価できる。特に、小・義務（前期）の算数科において全国平均に迫る学力向上が見られたことは、個に応じた丁寧な指導の成果であり、事業の成果として挙げられる。一方で、30人以下の学級編制により学級が増加し、担任教師の継続的な確保や、小・義務（前期）の国語科、中・義務（後期）の学力・学習状況調査結果が低迷している点は課題である。しかも、令和7年度は少人数指導特別教員の「効果的な弾力的活用」として、小中一貫校の推進教員の役割が大きくなる点は事業目的との整合性からも検討を要する。今後は、教員の確保と質の維持に加え、学力向上に向けた現場の不安を払拭し、持続可能な事業となるよう、丁寧な説明と教員研修の充実が重要と考える。

「学力検証事業（事業2）」は、各種学力検査を通じて学力向上策の評価・改善を推進し、特に小・義務（前期）における目標達成と算数の全国平均超えという顕著な成果を上げた点を高く評価する。短いスパンでの評価・改善サイクルが教員のやりがいにも繋がっているのは素晴らしい。一方で、中・義務（後期）の学力低迷と低位層の増加は喫緊の課題である。高中位層への具体的な方策がなく、低位層の生徒特定が十分でない点も懸念される。教員の業務負担増への配慮も重要である。今後は、中・義務（後期）における単元テスト導入が、学力向上と教員の負担感情を払拭するモチベーションの向上を両立できるか注視が必要である。学力向上検討委員会の機能強化や教員間での情報共有を徹底し、学力低位層へのきめ細かな支援をさらに強化するとともに、実行性のある評価・改善サイクルを確立し、組織的な学力向上を目指していただきたい。

「嘉麻市学力向上サポート事業（事業3）」は、地域人材や学生ボランティアを活用した「嘉麻市土曜未来塾」を通じて、家庭学習の習慣化と基礎学力の定着を目指す大変意義深い取組である。参加者の「計算力向上」「学習意欲向上」「先輩や大学生との交流による将来のイメージ形成」といった具体的な成果や肯定的な感想は、事業価値をより高めている。一方で、土日の家庭学習時間ゼロの児童生徒の割合において、目標を達成できた学校が10校中3校に留まっている点、そして土曜未来塾への参加率の低さは課題である。今後は、学力低位層の参加を促進する具体的な方策を検討するとともに、参加者や保護者の感想を掲載するなど「土曜未来塾」のPR活動を強化し、より多くの児童生徒が継続して参加できるよう働きかけを強化することを期待する。

## ■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

個性又は能力を育成するために、特別支援教育や英語コミュニケーション、情報教育、研究・研修推進、安全確保、施設維持管理、地域連携、一貫教育推進、就学援助・奨学金など、多岐にわたる事業が展開され、総じて学校教育の充実に寄与できていると評価する。

「特別支援教育推進事業（事業4）」は、特別な支援を必要とする児童生徒の増加傾向に対応し、特別支援教育補助教員等を基準どおり配置し、個々のニーズに応じた教育的支援を実施している点は高く評価できる。一方で、年々増加する特別な支援を必要とする児童生徒への一貫した継続的な指導・支援の充実は依然として重要な課題である。今後は、特別支援教育補助教員及び支援員の専門性向上とモチベーション維持のため、校内委員会での対応事例の蓄積や好事例の共有など研修内容のさらなる充実とキャリアパスの検討も視野に入れ、持続可能な支援体制の構築を目指していただきたい。

「小・中・義務教育学校情報教育施設整備事業（事業7）」は、GIGAスクール構想に基づき、児童生徒一人ひとりに最適な教育 ICT 環境の実現を目指しており、小・義務（前期）4校での通信環境改善や校務用 PC リプレースに向けた着実な準備など、計画どおりに事業が進捗している点を評価できる。AI ドリルなどの効果的なツール導入は、多様な児童生徒への個別最適な学びの提供に貢献しており、良い点と考える。今後は、担当課間の連携と他県・市町の先進的な取組を研究することにより、機器整備に留まらず、教師の指導能力向上や情報活用能力向上に資する ICT 環境の活用促進策を具体的に検討し、個別最適な学びや探究的な学びの推進に繋がるよう、さらなる機能強化を期待する。

## ■主要施策3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

道徳教育やキャリア教育、学校保健、給食、読書活動、不登校・いじめ対策、家庭教育、男女共同参画など、多岐にわたる事業が展開され、概ね目標値を達成しており、施策の目指す教育が推進されていると考える。

「適応指導教室（れすとぴあ）推進事業（事業26）」及び「各校における不登校対策」は、不登校児童生徒の社会的自立を支援し、不登校児童生徒率の低さや減少に貢献している点を高く評価する。令和5年度から令和6年度にかけて不登校児童生徒数が17名減少したこと、特に中学3年生（9年生）7名全員が進学を自己決定できたこと、そしてチャレンジ登校から3名が学校復帰できたことは、個に応じた丁寧な指導の具体的な成果であり、事業の好事例として特筆すべき点だと考える。社会見学活動や ICT 活用による支援も、チャレンジ登校や児童生徒の主体的な学びへの意欲を高めることに繋がっており高く評価できる。一方で、不登校児童生徒の約半数が発達障がい等を有しており、個別の支援ニーズへの対応をさらに強化する必要がある。また、校内教育支援センターの設置は評価できるものの、専属教員が配置されていない現状では、管理職等の兼務負担増や本来の目的とする機能が十分に発揮されているかの検証も必要だと考える。今後は、不登校児童生徒のさらなる減少に向けた具体的な目標値を設定し、その達成に向けた取組を強化するとともに、発達障がいのある児童生徒への専門的な支援体制の充実や、校

内教育支援センターの実行性向上に向けた検討を進め、学校・家庭・関係機関とのより一層密な連携を図ることで、すべての児童生徒が安心して学べる環境の整備に努力していただきたい。

「家庭教育支援事業（事業 30）」は、子育て家庭の孤立を防ぎ、地域ぐるみで支援体制を構築するという重要な目的を掲げており、多岐にわたる啓発活動や屋外体験事業を実施し、広範な対象に情報提供を行っている点は評価できる。特に、卒業生のボランティア参加など、地域との連携事例が見られることは、地域交流促進の良い点である。一方で、屋外体験事業のさらなる周知活動の必要性や、SNS 等の利用に関連する情報リテラシーに関する課題が挙げられる。今後は、屋外体験事業の参加者数を増加させるための具体的な広報戦略を再検討し、より多くの家庭が地域交流の機会を得られるように努めていただきたい。また、情報リテラシーに関しては、本人や保護者がアクセスしやすい具体的な講座内容や提供方法を検討し、注意喚起に留まらない、実践的な学びの機会を提供できるとよいと考える。地域・学校との連携をさらに強化し、子育て支援の持続可能な体制づくりを進めていくことを期待する。

#### ■主要施策 4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

社会教育施設の利用、公民館・図書館の利用などの活性化を目指した取組は、市民の生きがいにもつながる社会教育の機会として、多くが目標を達成しており順調に事業展開がなされていると理解した。今後、生涯学習センター等の改修工事による利用者の増加が期待される。

「図書館施設管理運営事業（事業 40）」は、図書館施設の適切な管理運営により、市民への快適な読書環境を提供しており、年間施設利用者数や貸出冊数など、人口減を考慮すると目標値に概ね近い水準を達成している点を評価する。特に、移動図書館車の巡回ステーション数が目標を上回ったこと、また「りんごの棚」の設置や音訳資料の紹介といった読書バリアフリーへの取組は、多様な市民ニーズに応えようとする努力として評価できる。今後は、人口減少という厳しい状況下で、いかに市民の図書館利用を促進し、目標値を達成していくかが重要である。電子図書館のトライアルで得られた知見を生かし、利用者ニーズや費用対効果を慎重に見極める電子図書館の再検討に加え、辞書の使い勝手や高齢者の利用、冊数制限といった課題を克服するための具体的な方策を検討することを期待する。また、「快適性」や「安心感」をさらに高めるための具体的な施策を継続的に実施し、市民に愛される図書館づくりを一層推進していただきたい。

「読書活動推進事業（事業 41）」は、市民の読書活動を推進し、図書館利用を促進するための多岐にわたる取組を実施しており、その成果を高く評価する。特に、「調べ学習コンクール」の応募総数が前年度の約 12 倍に激増した点は、学校との連携強化が実を結んだ素晴らしい成果であり評価できる。ブックスタート配布率 100%達成も、乳幼児期の読書習慣形成に大きく貢献しており好事例である。一方で、読書講演会の参加率が 32.7%に留まっている点は課題であり、目標値の再検討や、参加対象者のニーズに合わせた講演内容・広報戦略の工夫が求められる。今後は、読書講演会の参加率向上に向けた具体的な

戦略を検討するとともに、「調べ学習コンクール」の成果をさらに発展させることを検討していただきたい。また、「読書バリアフリー」への取組を一層強化し、録音図書や電子書籍の充実、ボランティアの育成など、誰もが読書を楽しめる環境整備に注力することで、市民の読書活動をより一層活性化させていただきたい。

#### ■主要施策5 体力及び運動能力向上の推進

生涯スポーツを推進するためにトレーニング法や地域でのスポーツ教室、児童生徒の体力向上、スポーツ環境整備など、順調に事業展開がなされていると理解できる。

「プロジェクトK推進事業（事業43）」は、荒木式コーディネーショントレーニングを導入し、市民の体力・運動能力向上だけでなく、脳神経機能の向上を目指すという先進的な取組であり、小・中・義務教育学校における導入率100%達成や、乳幼児施設での高い導入率は素晴らしい成果である。多様な出前講座や研修会の開催を通じて、普及の重点課題に積極的に取り組んでいる点も評価できる。一方で、トレーニングによる認知能力や脳機能への具体的な変化を示すデータが不足しており、教授と連携し事業の真の効果を客観的に検証した上で、さらにトレーニングの普及に取り組むかどうか検討が必要である。また、高齢者や障がいのある方々への導入事例を増やし、生涯スポーツ支援をより一層推進することを期待する。

#### ■主要施策6 人権尊重精神を育成する教育の推進

人権・同和教育推進は、すべての人が安心して暮らす社会の実現を目指す取組であり、学校や地域での事業は、概ね目標値を達成しており順調に事業展開がなされていると理解できる。

「人権・同和教育推進事業（事業47）」は、福岡県及び嘉麻市の人権教育・啓発基本指針に基づき、学校教育活動全体を通して児童生徒の人権意識を育む重要な取組であり、高く評価できる。学校での校内研修3回、市全域での研修1回が目標どおり実施され、全学校で徹底されている点は成果である。若年教員への継続的な研修や、人権・同和教育担当者会議での好事例共有は、教職員の意識向上に貢献していると考えられる。しかしながら、差別事象が依然として発生している現状や、SNSに関する人権課題への対応強化の必要性は大きな課題である。研修を通じて教職員の認識がどの程度深まり、それが児童生徒の人権意識向上に質的に結びついているか、さらなる検証が求められる。今後は、研修のアンケート結果をより具体的に分析し、個々のニーズに合わせた研修内容を強化することを期待する。特に、SNSに関する情報リテラシー教育や、部落問題、障がい者差別に関する学習内容の見直しを進め、子どもの感想や反応を踏まえた、心に響く教材開発に注力していただきたい。教職員の意識向上と児童生徒の実態に応じた指導を両輪で進め、誰もが安心して過ごせる学校環境の実現を目指していただきたい。

社会教育における「人権・同和教育推進事業（事業48）」は、地域社会全体で人権尊重の意識を高め差別解消を目指すという重要な役割を担っており、事業主向け研修会やパネル展の目標達成は評価できる。特に、ハローワークとの連携による研修会や、公民館事

業における子どもたちへの人権学習機会の確保は、多様な層へのアプローチとして良い点である。人権ビデオ視聴後の解説や「ときめき学習」での人権学習など、内容の工夫も評価できる。しかしながら、地域等での研修会開催回数が目標を下回っており、行政区への積極的な働きかけが不可欠と考える。今後は、地域での研修会開催に向けた働きかけを強化し、研修対象者（若年層、一般、高齢者など）のニーズに合わせた研修内容についての構想を具体的に検討・実施することを期待する。特に、SNS等ネット上での人権問題への対策を強化し、情報リテラシーを含めた研修を充実させる必要がある。また、アンケート結果を詳細に分析し、市民の人権意識の質的な変化を把握する努力を継続することで、より実効性のある人権尊重社会の実現を目指していただきたい。

#### ■主要施策7 市民文化の創造

文化芸術に関する事業として、目標を十分に達成している取組と下回った取組が見られ、初年度の反省を生かした事業展開がなされることを期待する。

「文化芸術活動推進事業（事業51）」は、市民の自主的な文化芸術活動や学校教育を支援し、感性豊かな人材の育成や郷土への誇りを育むという重要な目的を掲げており、その推進について評価できる。特に、展示室5の利用団体数が目標を上回ったことは、地域団体との連携が成果を上げている良い点だと考える。また、所蔵作品を活用した教育支援に着手したことも、今後の可能性を広げる取組として期待できる。しかしながら、美術館を活用した学校数や市民アトリエの利用回数が目標値を大きく下回っている点は大きな課題である。教員へのメールやタブレットでの周知だけでは不十分であり、学校側のニーズと美術館側の提供内容に乖離がある可能性がある。また、「感性豊かな人材の育成」といった目的達成度を測る具体的な評価方法が未定である点も懸念される。今後は、学校との連携を強化するため、教員の多忙な状況を考慮した打合せタイミングの設定や、カリキュラムに即した出前授業の具体的な計画を早急に進めることを期待する。特に、郷土の芸術に触れる学習会は「郷土への誇り」育成に直結する重要な取組となると考える。さらに、事業目的の達成度を測るための客観的な評価手法（アンケートやフィードバックなど）を確立し、事業の有効性を高めていただきたい。

「美術館運営管理事業（事業52）」は、美術館と碓井琴平公園の適切な維持管理を通じて、快適で安全な利用環境を提供しており、この点は高く評価できる。市民アトリエや展示室5の利用回数が目標に近づき、地域における文化活動の場として定着していることも良い点である。しかし、展示室入館者数や総入館者数が目標を大幅に下回っている点は大きな課題である。過去10年間同様の目標値設定であるにもかかわらず、特に令和6年度の実績が低迷した原因として夏の企画展が実施できなかったことを挙げているが、根本的な集客力強化が必要だと考える。今後は、夏の企画展が開催できなかった影響を分析し、その改善策を次年度の事業計画に反映させることを期待する。また、他市からの利用者が8割を占めるという強みを生かし、より効果的な広報戦略を策定し、交流人口の拡大を図る必要がある。学校や地域団体、他部署との連携を強化し、事業内容や情報発信を工夫することで、美術館の価値向上と来館者数回復に繋げていただきたい。

## 【全体所見】

令和6年度の施策・事業の点検評価にあたり、第6次嘉麻市教育アクションプラン初年度として、時代に合った教育ニーズや地域の実情に応じた取組として、重要な施策・事業が網羅されており、事業目的を達成するために真摯に取り組まれていることを高く評価する。

各施策・事業の記述内容の確認と各課職員とのヒアリングを通じ、今後の事業展開及び点検・評価に当たり、全体を通じて次の3点を特に検討いただきたい。①目標値の設定について、「配置」「実施」といった表記に留まらず、可能な範囲で具体的な数値目標（配置人数、配置数、実施回数、実施数、参加者数、実施期限など）を設定すること。②アンケート結果等の効果検証においては、評価基準（満足度、意識の変革度、実践への活用意欲度など）を設け、結果を数値化し事業効果の客観的な検証を図ること。③自己評価の根拠について、客観的に納得できるものにするために、具体的な成果や課題などについて可能な範囲で例示すること。

また、学力向上に向けた指導・支援体制の整備、検証改善サイクルの構築、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けたICT活用、グローバル社会で活躍するための実践的な英語力育成、体力向上、そして高まる道德・人権教育へのニーズを踏まえた事業展開は引き続き重要である。特に、SNS等によるいじめや差別発言の増加に対し、発達段階に応じた情報モラル教育と本人・保護者への啓発を急務と捉え、実効性ある対策に取り組んでいただきたい。さらに、教職員の働き方改革の視点も踏まえつつ、地域社会の教育力低下という課題に対し、学校・家庭・地域の連携強化は不可欠である。文化芸術活動においても、障がいの有無にかかわらず誰もが親しめる環境整備と、人口減少下での人材・予算確保の工夫に期待するところである。これらの検討を通じて、より実効性の高い事業推進を図られることを願っている。

嘉麻市教育アクションプランの初年度評価を終え、7つの主要施策・57の事業が「誰もが主役、笑顔のあふれる未来教育」という目標に向け、着実に前進していることを確認しました。初年度の成果と課題を真摯に検証し、「誰一人取り残さない」という理念のもと、2年次にはさらに充実した事業展開を強く期待します。

この取組が長期的な視点で実を結び、いつの日か「教育の嘉麻市」として確固たる地位を築くことを願っています。そして、それが市民一人ひとりの誇りとなり、やがては嘉麻市の人口増加など持続的な発展へとつながることを願っています。

## 嘉麻市教育委員会点検評価実施要綱

[平成 21 年嘉麻市教育委員会要綱第 6 号]

[平成 23 年嘉麻市教育委員会要綱第 4 号]

[平成 24 年嘉麻市教育委員会要綱第 4 号]

[平成 26 年嘉麻市教育委員会要綱第 4 号]

[平成 26 年嘉麻市教育委員会要綱第 6 号]

[平成 27 年嘉麻市教育委員会要綱第 3 号]

[令和 2 年嘉麻市教育委員会要綱第 1 号]

[令和 4 年嘉麻市教育委員会要綱第 3 号]

(趣旨)

第 1 条 この要綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 26 条及び嘉麻市教育基本条例（平成 22 年嘉麻市条例第 16 号。以下「条例」という。）第 7 条の規定に基づき、嘉麻市教育委員会（以下「教育委員会」という。）が実施する事務の点検及び評価について、必要な事項を定めるものとする。

(点検評価事項)

第 2 条 教育委員会は、前年度の教育委員会の事務の管理及び執行の状況について、次に掲げる事項の点検及び評価（以下「点検評価」という。）を行う。

- (1) 教育委員会の会議の実施状況等に関すること。
- (2) 教育委員会の主要な施策に関する執行の状況及びその成果に関すること。

(点検評価の方法)

第 3 条 教育委員会は、点検評価を実施するに当たり、別に定める評価表により教育委員会事務局において、その所管する事務事業等の自己評価を行わせるものとする。

- 2 教育委員会は、前項の自己評価の結果について評価の客観性を確保するため、嘉麻市教育委員会点検評価委員（以下「評価委員」という。）を設置し、意見を求める。
- 3 教育委員会は、評価委員の意見を踏まえ、教育委員会の会議において最終的な点検評価を行う。

(評価委員)

第 4 条 評価委員は、3 人以内とし、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱する。

- (1) 教育に関し、学識経験者を有する者
- (2) その他教育委員会が適当と認める者

第 5 条 評価委員の任期は 3 年とし、再任を妨げない。ただし、委員が欠けたときの補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(公表の方法)

第 6 条 教育委員会は、条例第 7 条の規定により点検評価の結果に関する報告書は次に

掲げる方法で公表する。

- (1) 嘉麻市公式ホームページに掲載
- (2) 報道機関に提供
- (3) 教育委員会での閲覧  
(庶務)

第7条 点検評価の実施に関する庶務は、主幹課において処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、点検評価の実施に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則〔平成21年嘉麻市教育委員会要綱第6号〕

この要綱は、平成21年7月8日から施行する。

附 則〔平成23年嘉麻市教育委員会要綱第4号〕

この要綱は、平成23年4月5日から施行する。

附 則〔平成24年嘉麻市教育委員会要綱第4号〕

この要綱は、平成24年4月1日から施行する。

附 則〔平成26年嘉麻市教育委員会要綱第4号〕

この要綱は、平成26年4月1日から施行する。

附 則〔平成26年嘉麻市教育委員会要綱第6号〕

この要綱は、平成26年10月6日から施行する。

附 則〔平成27年嘉麻市教育委員会要綱第3号〕

この要綱は、公表の日から施行し、改正後の嘉麻市教育委員会点検評価実施要綱の規定は、平成27年4月1日から施行する。

附 則〔令和2年嘉麻市教育委員会要綱第1号〕

この要綱は、令和2年6月2日から施行し、改正後の嘉麻市教育委員会点検評価実施要綱の規定は、令和2年4月1日から適用する。

附 則

この要綱は、令和4年5月1日から施行し、改正後の嘉麻市教育委員会点検評価実施要綱の規定は、令和4年4月1日から適用する。

**嘉麻市教育委員会点検・評価報告書**

**(令和6年度事業分)**

発 行 嘉麻市教育委員会 教育総務課

〒820-0592 福岡県嘉麻市上臼井 446 番地 1

T E L 0948-62-5723